

2021年度 青少年のインターネット・リテラシー指標等 に係る調査結果

2022年4月

総務省情報流通行政局
情報流通振興課
情報活用支援室

目次

1. 青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標等に係る調査結果
－ILAS (Internet Literacy Assessment indicator for Students)－
2. ILASの実施概要等
3. 2021年度ILASの結果
4. 高校生のインターネット利用実態
5. フィルタリング利用状況
6. 高校生のインターネット利用実態とILAS結果 (クロス集計)
7. 参考

1. 青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標等に係る調査結果－ILAS (Internet Literacy Assessment indicator for Students)－

- スマートフォンが急速に普及し、インターネットがますます青少年にとって身近になる中、青少年がインターネットを安全に安心して活用するためには、インターネット・リテラシーの向上が必要。
- 総務省では、利用者視点を踏まえたICTサービスに係る諸問題に関する研究会（青少年インターネットWG）の提言（2011年10月）を受け、青少年のインターネット・リテラシー向上のための前提として、特にインターネット上の危険・脅威に対応するための能力とその現状等を可視化するため、これらの能力を数値化するテストを指標として開発。2012年度より毎年、高等学校1年生を対象に、青少年のインターネット・リテラシーを測るテストをインターネット等の利用状況に関するアンケートとあわせて実施（以下、本資料において「高校生」とは高等学校1年生を指すものとする。）。
- 今年度は、協力を得られた75校の高等学校において、2021年9月から12月にかけてテスト及びアンケートを実施。その結果を集計・分析し、「青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標（ILAS：アイラス）等に係る調査結果」として取りまとめた。

■「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」（2009年4月1日施行）

【基本理念】

- ①青少年の適切なインターネット活用能力の習得（インターネット利用に係るリテラシー向上）、②青少年の有害情報の閲覧機会の最小化（フィルタリングの機能向上・普及、関係事業者による取組み）、③民間による自主的・主体的取組、国等による尊重・支援

■利用者視点を踏まえたICTサービスに係る諸問題に関する研究会（青少年インターネットWG）提言（2011年10月）

2. 各関係者に求められる役割等（中略）

行政には、（特にインターネット上の危険への対処に係る）インターネットリテラシーに関する指標を、国際的に比較可能な形で整備し、定期的に公表していくことが求められている。

■青少年のインターネット・リテラシー指標に関する有職者検討会（2011年9月～2012年3月）

教育学や法学等に知見を有する有識者の方々からのご知見を踏まえ、特にインターネット上のリスク分類と、これに対応した危険・脅威への対応能力の整理、この能力を明らかにするテストの開発・分析・整理を実施。

（顧問）堀部政男（一橋大学名誉教授）、渡部洋（東京大学名誉教授）（座長）赤堀侃司（白鷗大学教育学部長・教授）、（座長代理）新井健一（ベネッセ教育研究開発センター長）

2. ILASの調査概要等

○ テスト及びアンケート調査の実施概要

2021年9月から12月にかけて、全国75校の公立・私立の高等学校において、計14,021名の1年生相当を対象にIDを割り付けた上で無記名形式でテストを実施。併せて、利用している機器やトラブル経験の有無等についてアンケートを行い、クロス集計を実施。

所在地区分		設立区分		協力人数		平均点	
特別区等	7校	国公立	58校	男子	7,420人	男子	33.8点
中核市	14校	私立	17校	女子	6,596人	女子	35.5点
その他	54校			性別無回答	5人		
計75校				計	14,021人	全体	34.6点(49点満点)

100%換算で70.6%
(前年度：72.0%)

(次ページ以降、100%換算で示す)

○ 青少年に必要なリスク対応能力の分類

「青少年のインターネット・リテラシー指標に関する有識者検討会」（2011年9月～2012年3月、座長：赤堀侃司白鷗大学教授）において、OECDの「インターネット上の青少年保護に関するレポート」（2011年5月）におけるリスク分類をベースに、インターネット上の危険・脅威への対応に必要な能力（リスク対応能力）に関し、以下の項目に整理。

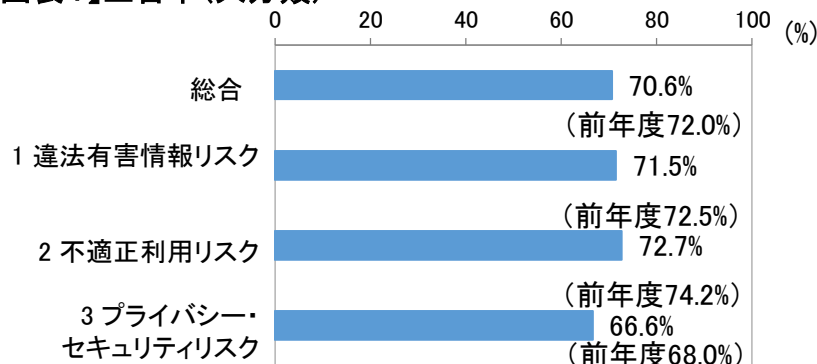
【青少年に必要なリスク対応能力】

- インターネット上の違法コンテンツ、有害コンテンツに適切に対処できる能力 **【違法有害情報リスクへの対処能力】**
 - 違法コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる。 **【違法情報リスク】**
 - 有害コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる。 **【有害情報リスク】**
- インターネット上で適切にコミュニケーションができる能力 **【不適正利用リスクへの対処能力】**
 - 情報を読み取り、適切にコミュニケーションができる。 **【不適切接触リスク】**
 - 電子商取引の問題を理解し、適切に対処できる。 **【不適正取引リスク】**
 - 利用料金や時間の浪費に配慮して利用できる。 **【不適切利用リスク】**
- プライバシー保護や適切なセキュリティ対策ができる能力 **【プライバシー・セキュリティリスクへの対処能力】**
 - プライバシー保護を図り利用できる。 **【プライバシーリスク】**
 - 適切なセキュリティ対策を講じて利用できる。 **【セキュリティリスク】**

3. 2021年度ILASの結果（結果概要）

- リスクの大分類別については、「3 プライバシー・セキュリティリスク」（66.6%）が比較的低い。【図表1】
- リスクの中分類別については、「2c. 不適切利用リスク」（79.6%）、「2a. 不適切接触リスク（78.3%）」は高く、「2b. 不適正取引リスク」（60.2%）、「3a. プライバシーリスク」（64.7%）が低い傾向である。【図表2】

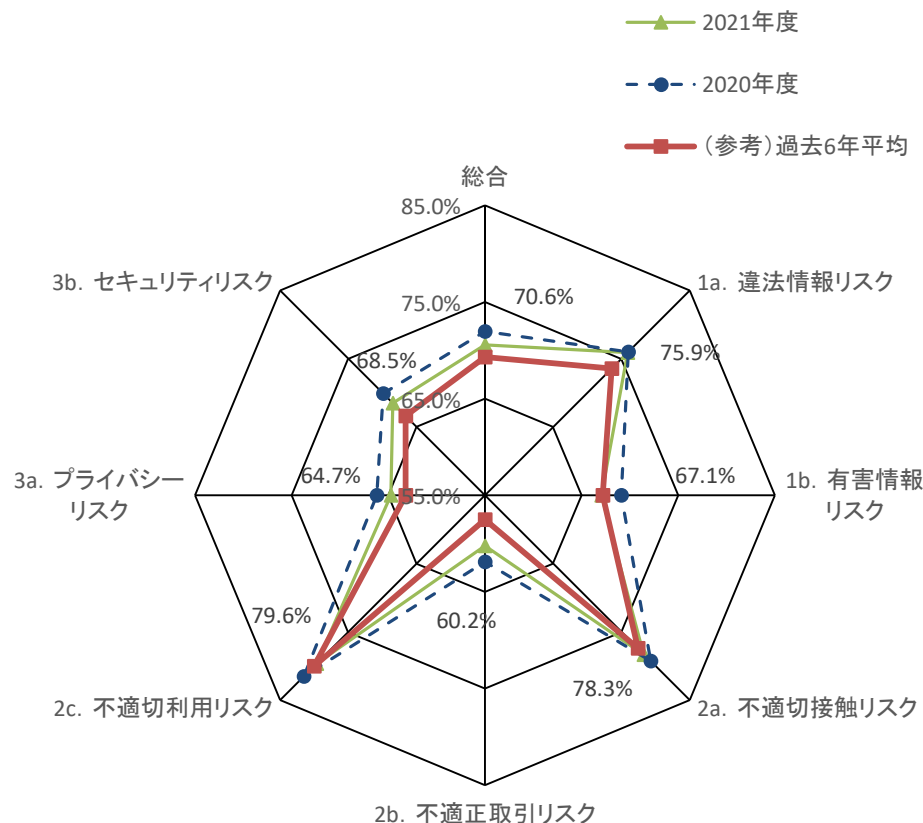
【図表1】正答率(大分類)



【図表2】正答率(中分類)

中分類	2021年度正答率	前年度正答率
総合	70.6%	72.0%
1 違法有害情報リスク	71.5%	72.5%
1a. 違法情報リスク <small>著作権、肖像権、出会い系サイト等</small>	75.9%	76.0%
1b. 有害情報リスク <small>不適切投稿、炎上、閲覧制限等</small>	67.1%	69.1%
2 不適正利用リスク	72.7%	74.2%
2a. 不適切接触リスク <small>匿名SNS、迷惑メール、SNSいじめ等</small>	78.3%	79.3%
2b. 不適正取引リスク <small>フィッシング、ネット上の売買等</small>	60.2%	61.9%
2c. 不適切利用リスク <small>過大消費、依存、歩きスマホ、マナー等</small>	79.6%	81.5%
3 プライバシー・セキュリティリスク	66.6%	68.0%
3a. プライバシーリスク <small>プライバシー、個人情報の流出等</small>	64.7%	66.2%
3b. セキュリティリスク <small>ID・パスワード、ウイルス等</small>	68.5%	69.9%

【参考】正答率比較(中分類)



※ラベルは2021年度の数値

3. 2021年度ILASの結果（過去結果との比較）

- 全体の正答率（70.6%）は、過去6年間の平均を上回っており、過去6回で最も高かった2020年度（72.0%）に次いで高かった。
- 項目別の正答率について、「2b. 不適正取引リスク」は7つのリスク分類の中で正答率（60.2%）が最も低い。2015年からの変化で見ると、「1a. 違法情報リスク」と「3b. セキュリティリスク」の正答率は上昇傾向にある。

違法情報リスク（著作権、肖像権、出会い系サイト等）：72.9%（2015年度）→75.9%（2021年度）となっており、3.0ポイント上昇。
 セキュリティリスク（ID・パスワード、ウイルス等）：65.3%（2015年度）→68.5%（2021年度）となっており、3.2ポイント上昇。

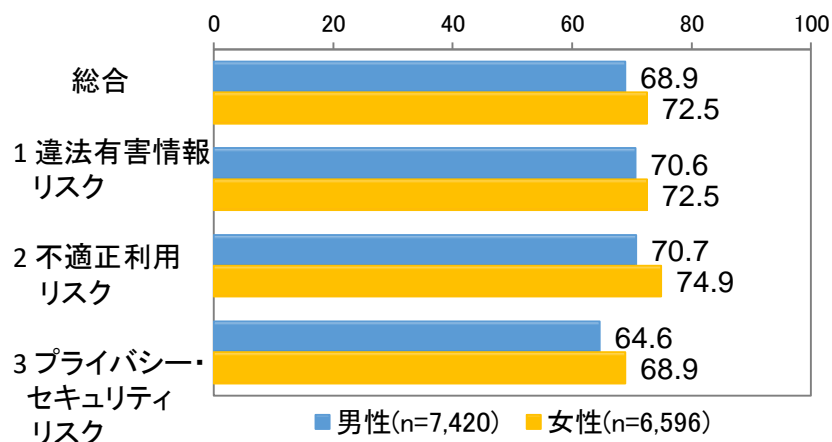
【図表】

リスク分類	具体例	2015年度 (n=13,647)	2016年度 (n=14,812)	2017年度 (n=17,223)	2018年度 (n=12,626)	2019年度 (n=7,252)	2020年度 (n=12,499)	(参考) 過去6年 平均	2021年度 (n=14,021)
総 合	-	69.7%	67.2%	68.8%	69.6%	68.7%	72.0%	69.3%	70.6%
1a. 違法情報リスク	著作権、肖像権、 出会い系サイト等	72.9%	71.8%	73.8%	73.6%	73.4%	76.0%	73.6%	75.9%
1b. 有害情報リスク	不適切投稿、炎上、 閲覧制限等	68.2%	65.9%	66.8%	67.4%	66.0%	69.1%	67.2%	67.1%
2a. 不適切接触リスク	匿名SNS、迷惑メー ル、SNSいじめ等	78.3%	75.8%	77.0%	77.1%	76.6%	79.3%	77.4%	78.3%
2b. 不適正取引リスク	フィッシング、 ネット上の売買等	57.1%	54.6%	56.4%	57.5%	57.3%	61.9%	57.5%	60.2%
2c. 不適切利用リスク	過大消費、依存、 歩きスマホ、マナー 等	82.4%	77.5%	79.4%	80.2%	78.9%	81.5%	80.0%	79.6%
3a. プライバシーリスク	プライバシー、 個人情報の流出等	63.9%	60.8%	62.3%	63.9%	62.0%	66.2%	63.2%	64.7%
3b. セキュリティリスク	ID・パスワード、 ウイルス等	65.3%	64.3%	65.6%	67.4%	66.8%	69.9%	66.6%	68.5%

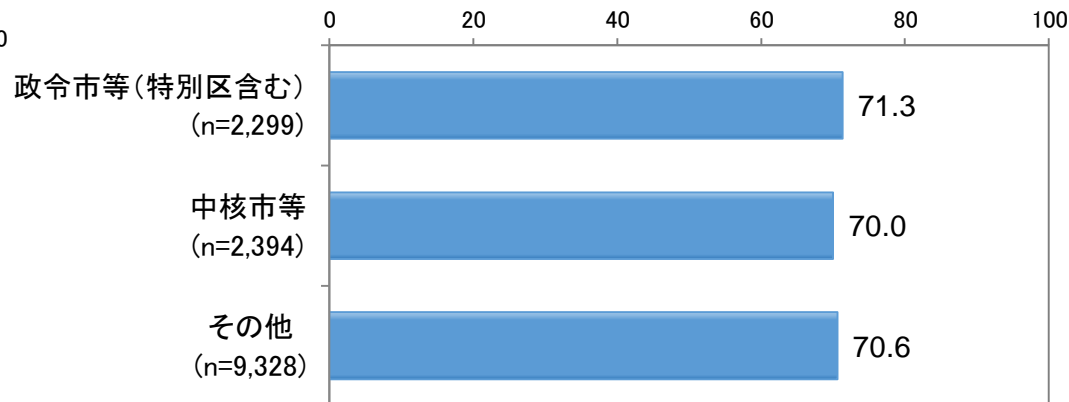
3. 2021年度ILASの結果（男女別及び学校所在地別）

- 男女別では、男性68.9%、女性72.5%と、女子の方が高く、この傾向は例年と同様である。【図表1】
- 学校所在地別では、総合正答率は政令市（特別区含む）が71.3%、中核市等70.0%、その他70.6%で、大きな差は見られない。【図表2】

【図表1】男女別の正答率(大分類)



【図表2】学校所在地別の正答率



	2016年		2017年		2018年		2019年		2020年		2021年	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
総合	64.8	69.8	66.5	71.1	67.0	72.1	66.1	71.3	70.1	74.0	68.9	72.5
1 違法有害情報リスク	67.2	70.5	68.9	71.8	68.8	72.2	67.9	71.5	71.4	73.8	70.6	72.5
2 不適正利用リスク	66.3	72.4	68.2	73.8	68.6	74.5	67.9	73.8	72.2	76.4	70.7	74.9
3 プライバシー・セキュリティリスク	60.1	65.0	61.7	66.3	63.0	68.3	61.5	67.2	65.8	70.4	64.6	68.9

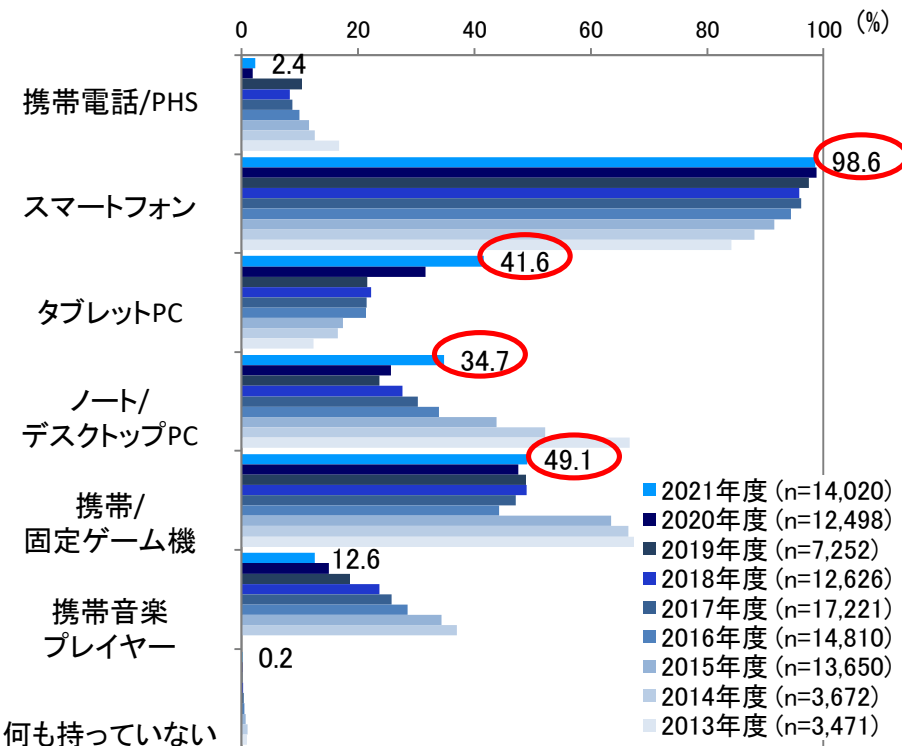
	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
政令市等(特別区含む)	65.2	68.8	73.5	70.7	75.6	71.3
中核市等	68.2	70.1	69.3	68.2	71.2	70.0
その他	67.5	68.4	68.8	68.4	71.2	70.6

4. 高校生のインターネット利用実態（保有機器）

- 高校生の98.6%がインターネット接続機器として「スマートフォン」を保有している。そのほかでは、「携帯／固定ゲーム機」（49.1%）、「タブレットPC」（41.6%）が多い。「タブレットPC」は2020年度から急増した。減少傾向にあった「ノート／デスクトップPC」も、2020年度以降増加して、2021年度には34.7%となった。「携帯音楽プレイヤー」「携帯電話／PHS」は引き続き減少傾向にある。【図表1】
- 保有するインターネット接続機器のうちで最もよく利用する機器として、高校生の92.9%がスマートフォンをあげている。【図表2】

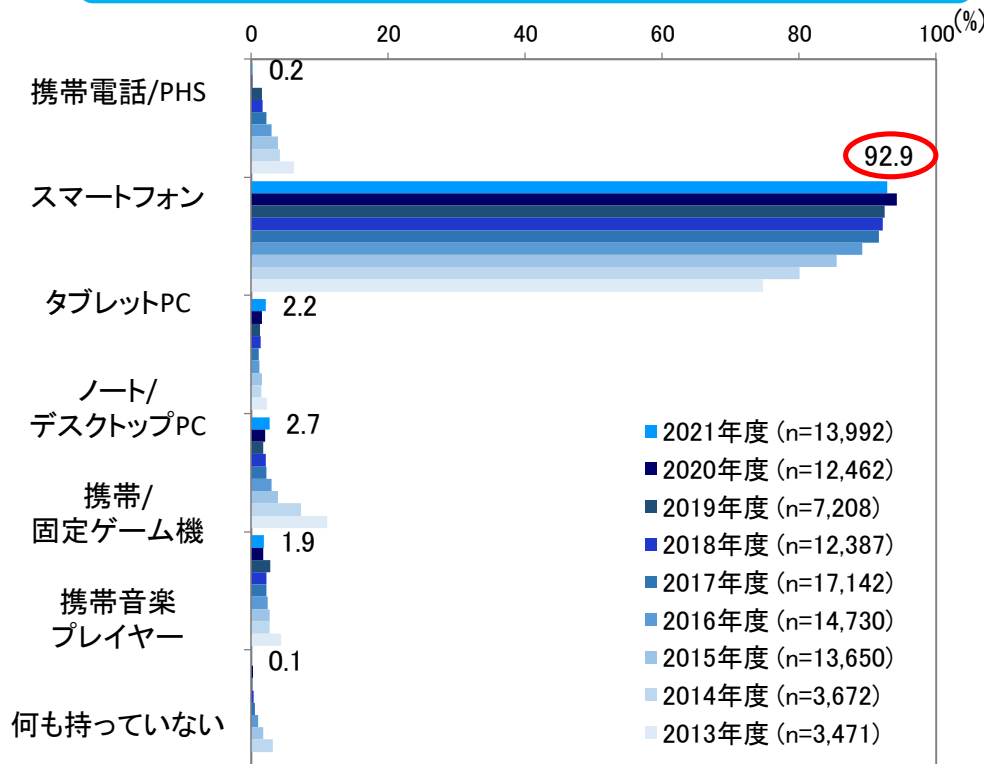
【図表1】保有するインターネット接続機器（複数回答）

あなたが保有しているインターネットに接続する機器を教えてください。



【図表2】保有するインターネット接続機器のうち、最もよく利用する機器（択一回答）

左の間でお答えいただいた機器の中であなたが最もよく利用する機器はどれですか。



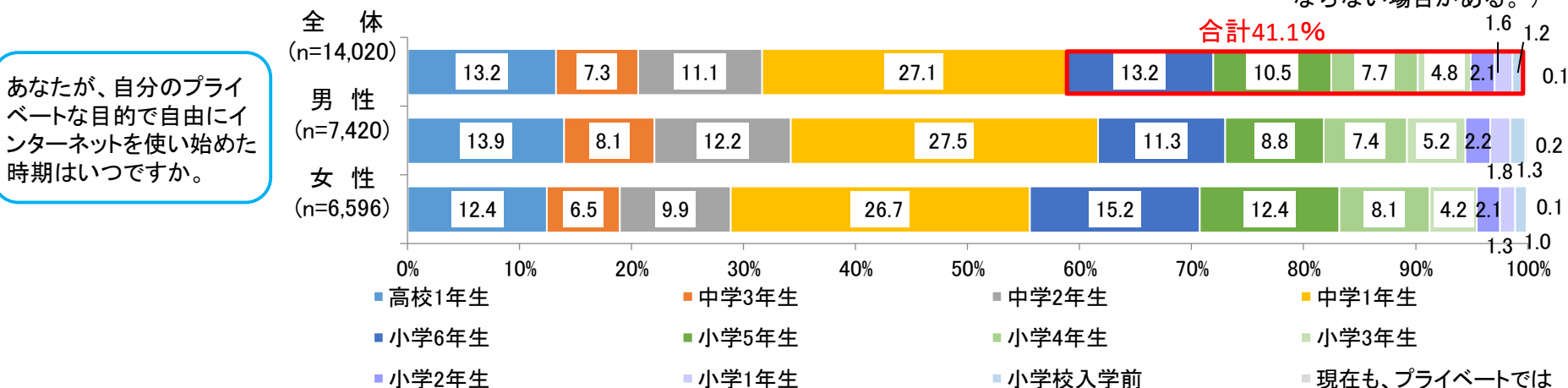
4. 高校生のインターネット利用実態（インターネット利用開始時期と教えた人）

- インターネットを自由に使い始めた時期について聞くと、「中学1年生」が全体の27.1%で最も多いが、中学入学前（小学6年生以下）の回答が41.1%を占める。【図表1】
- インターネットを自由に使い始めた時期に使い方を主に教えてもらった人は「保護者」が46.1%と最も多い（男性41.9%、女性50.7%）が、「誰にも教わらなかった／特に調べなかった」は全体の21.5%を占める。【図表2】

【図表2】

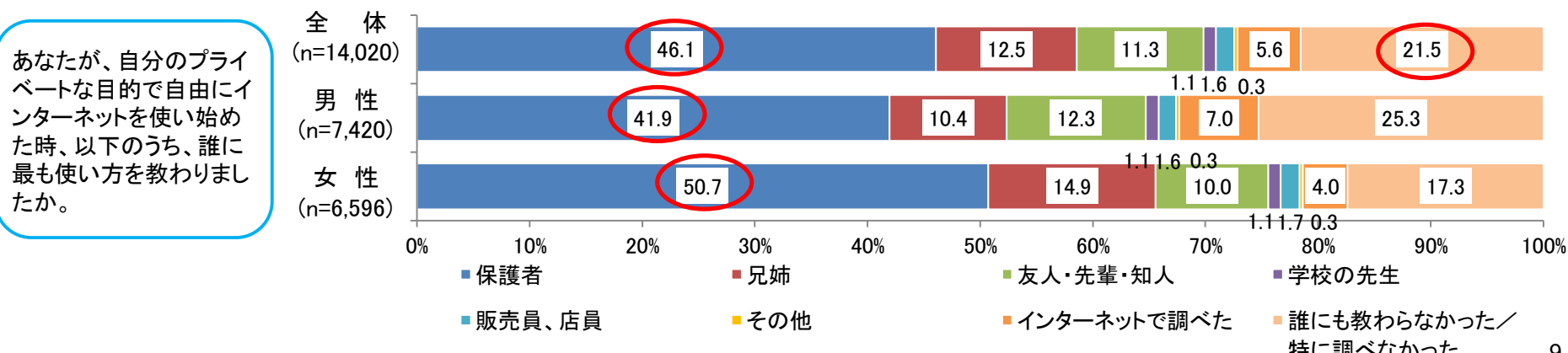
【図表1】インターネット利用開始時期（択一回答）

（※グラフは小数点以下第2位を四捨五入しているため、グラフの値の足し上げが100%にならない場合がある。）



【図表2】インターネット利用開始時に使い方を主に教えてもらった人（択一回答）

現在も、プライベートではインターネットを使っていない

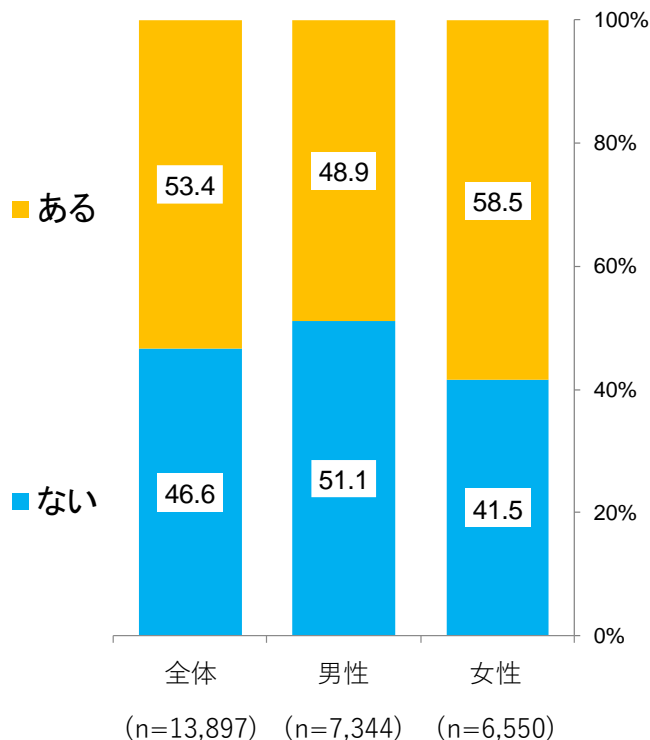


4. 高校生のインターネット利用実態（家庭でのルール）

- スマートフォンやSNSを利用する際の家庭でのルールの有無を聞くと、「ある」は全体の53.4%で、女性では58.5%と男性の48.9%と比較して多い。【図表1】
- ルールがある場合、その具体内容を複数回答で聞くと、「情報公開（個人情報）の制限」（43.7%）、「使用できるサービス・アプリの制限」（39.1%）が4割前後と多い。【図表2】

【図表1】家庭でのルールの有無(択一回答)

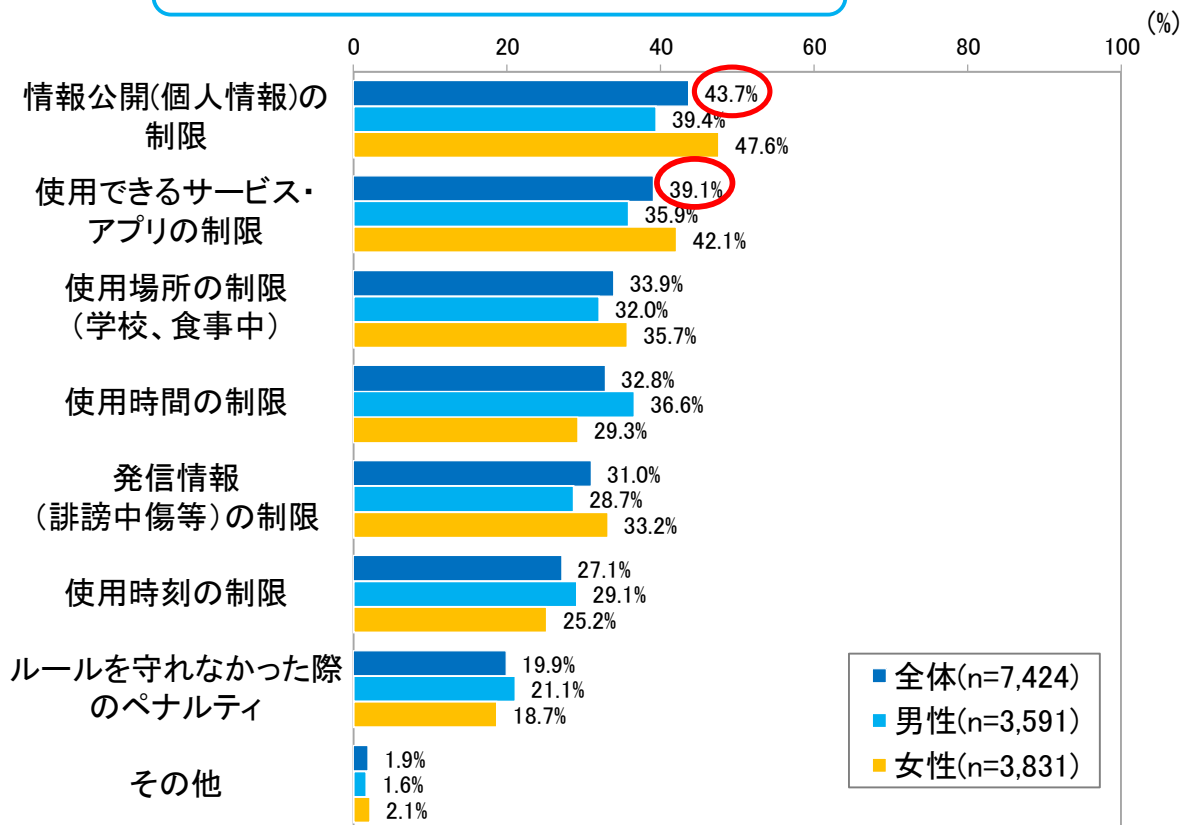
スマートフォン等やSNSを利用する際の家庭でのルールがありますか。



【図表2】家庭でのルールの内容(複数回答)

(家庭でのルールが「ある」と回答した者ベース)

家庭でのルールはどのようなルールがありますか。



■ 全体(n=7,424)
■ 男性(n=3,591)
■ 女性(n=3,831)

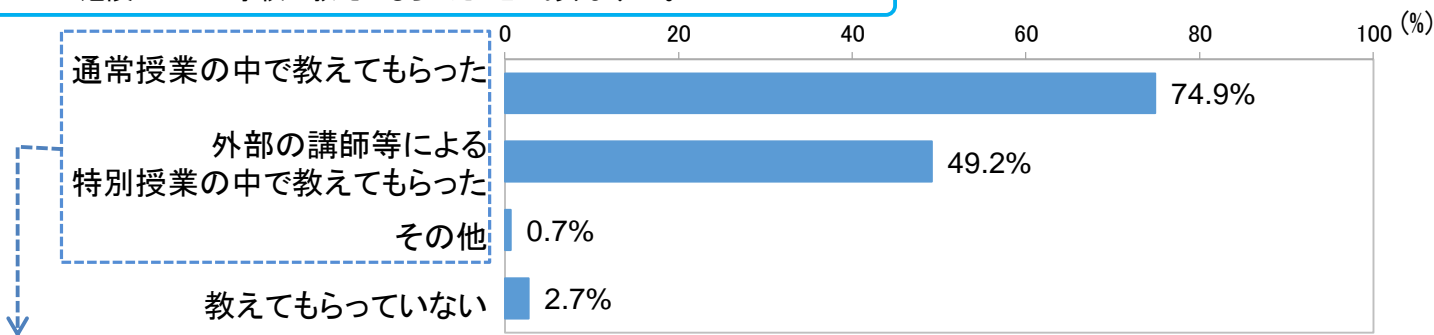
(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート(対象はいずれも高等学校1年生)の結果を基に作成。

4. 高校生のインターネット利用実態（学校での学習）

- インターネットの危険について教えられた経験については、74.9%が通常授業の中で、49.2%が外部の講師等による特別授業の中で教えてもらっている。【図表1】
- 学校で教えてもらったことがある場合、教えられた内容については、「ネットいじめ」（88.8%）、「個人情報・プライバシー」（85.0%）、「ネット依存」（83.7%）が多い。【図表2】

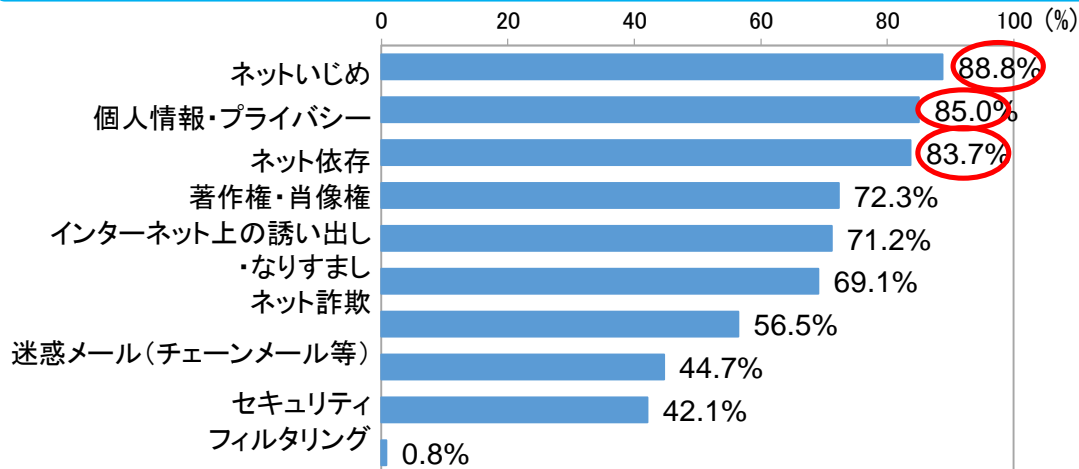
【図表1】インターネット上の危険に関する学校での学習（複数回答）(n=13,934)

あなたはインターネット上の危険について学校で教えてもらったことがありますか。



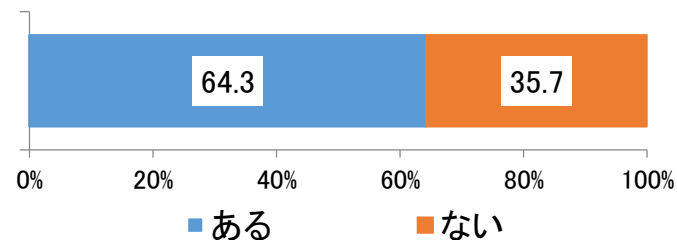
【図表2】授業で教えられた内容（複数回答）(学校で教えてもらった者ベース n=12,623)

あなたは学校でどのようなインターネット利用上の危険等への対処方法を教えてもらいましたか。



【図表3】学校でのSNS利用のルール有無（択一回答）(n=13,927)

あなたの学校でSNS等のインターネット利用についてルールはありますか。

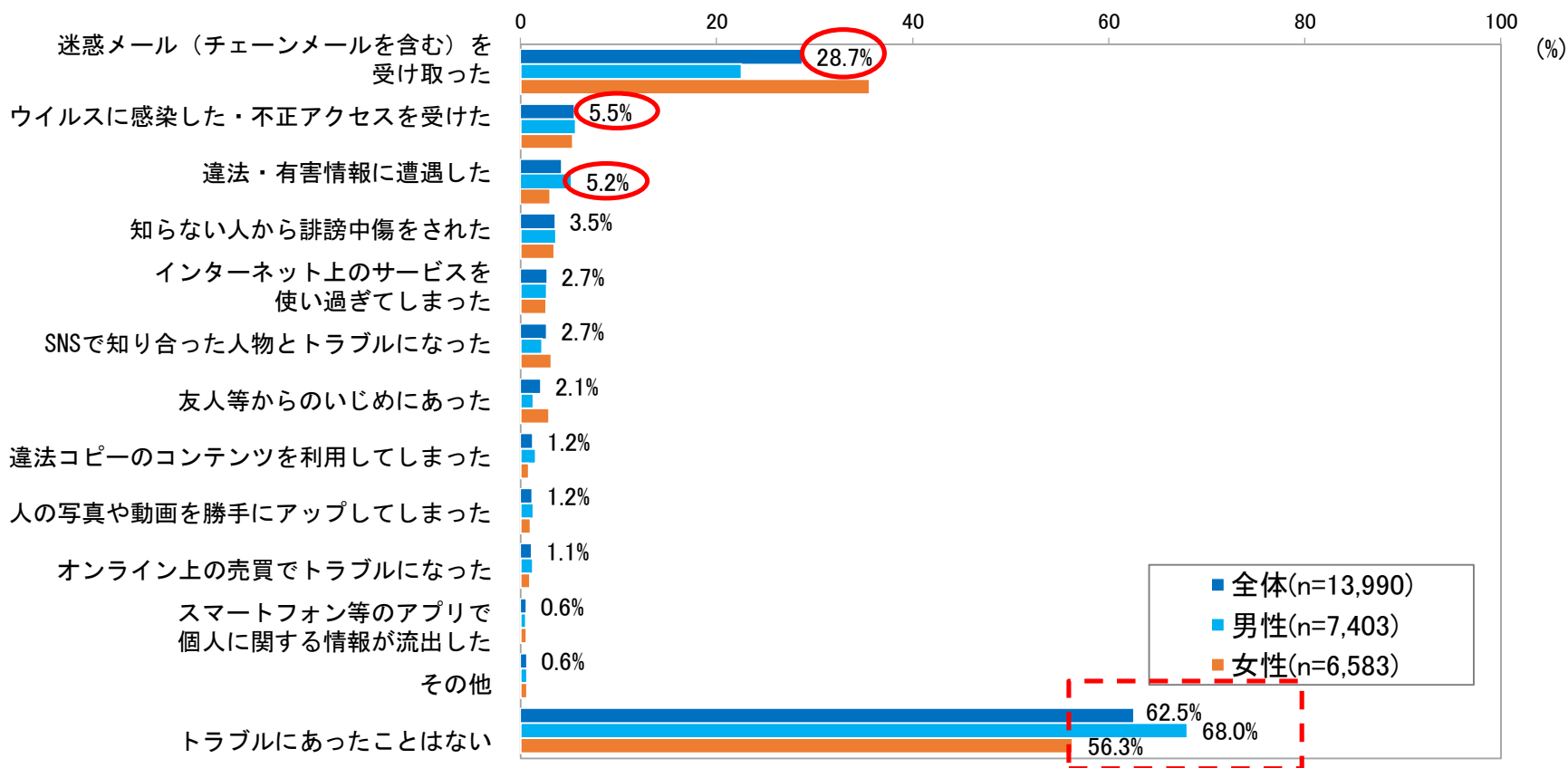


4. 高校生のインターネット利用実態（トラブル遭遇状況）

- トラブル遭遇経験を聞くと、「トラブルにあったことはない」は全体の62.5%、男性では68.0%に対し、女子は56.3%だった。女性の方がトラブル遭遇率が高いといえる。
- 遭遇したトラブル内容については、「迷惑メール」（28.7%）が最も多く、「ウイルスに感染した・不正アクセスを受けた」（5.5%）が続く。なお、男性については「違法・有害情報に遭遇した」がやや多い傾向にある（5.2%）。

【図表1】インターネット利用に際してあったことのあるトラブル（複数回答）

あなたはインターネットの利用に際してどのようなトラブルにあったことがありますか。

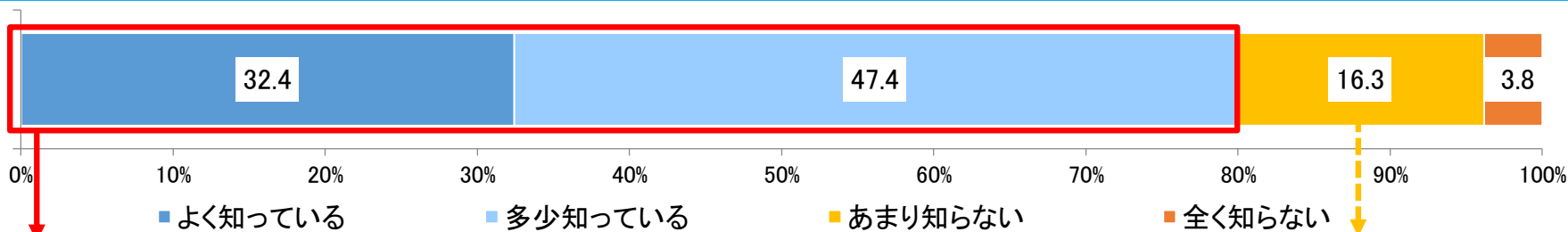


5. フィルタリング利用状況（フィルタリングの認知と利用状況）

- スマートフォンを利用している高校生のうち79.8%（「よく知っている」が32.4%、「多少知っている」が47.4%）が一定程度フィルタリングを認知し、2020年度（79.5%）よりも増加している。【図表1】
- 一定程度フィルタリングを認知している高校生のうち、44.3%がフィルタリングを利用し、18.3%が以前利用していたが、今は利用していない。【図表2】
- なお、フィルタリングについてあまり知らない高校生のフィルタリング利用率は15.9%である。

【図表1】フィルタリングの認知状況(択一回答) (スマートフォン保有者ベース、n=13,820)

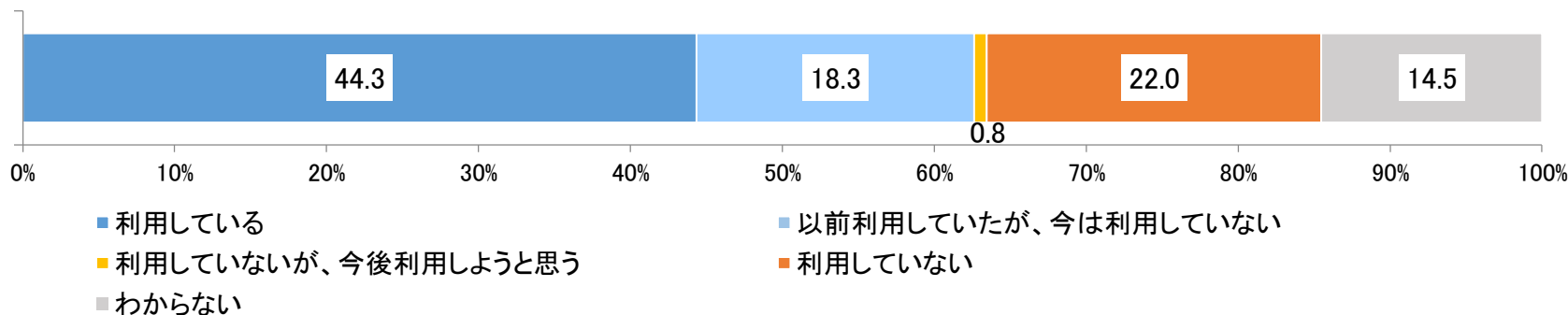
あなたはフィルタリング(あんしんフィルター等のアプリだけでなく、スクリーンタイムやファミリーリンク等のOS機能やサービスも含みます。)を知っていますか。



【図表2】フィルタリングを認知している※高校生のフィルタリング利用状況(択一回答)
(スマートフォン保有かつフィルタリングを「よく知っている」「多少知っている」と回答した者ベース n=11,035)

【参考】
フィルタリングを「あまり知らない」と回答した者におけるフィルタリング利用率: 15.9%

あなたはフィルタリングサービスまたは機能制限を利用していますか。



(※グラフは小数点以下第2位を四捨五入しているため、グラフの値の足し上げが100%にならない場合がある)

5. フィルタリング利用状況（インターネット利用開始時期別の利用状況）

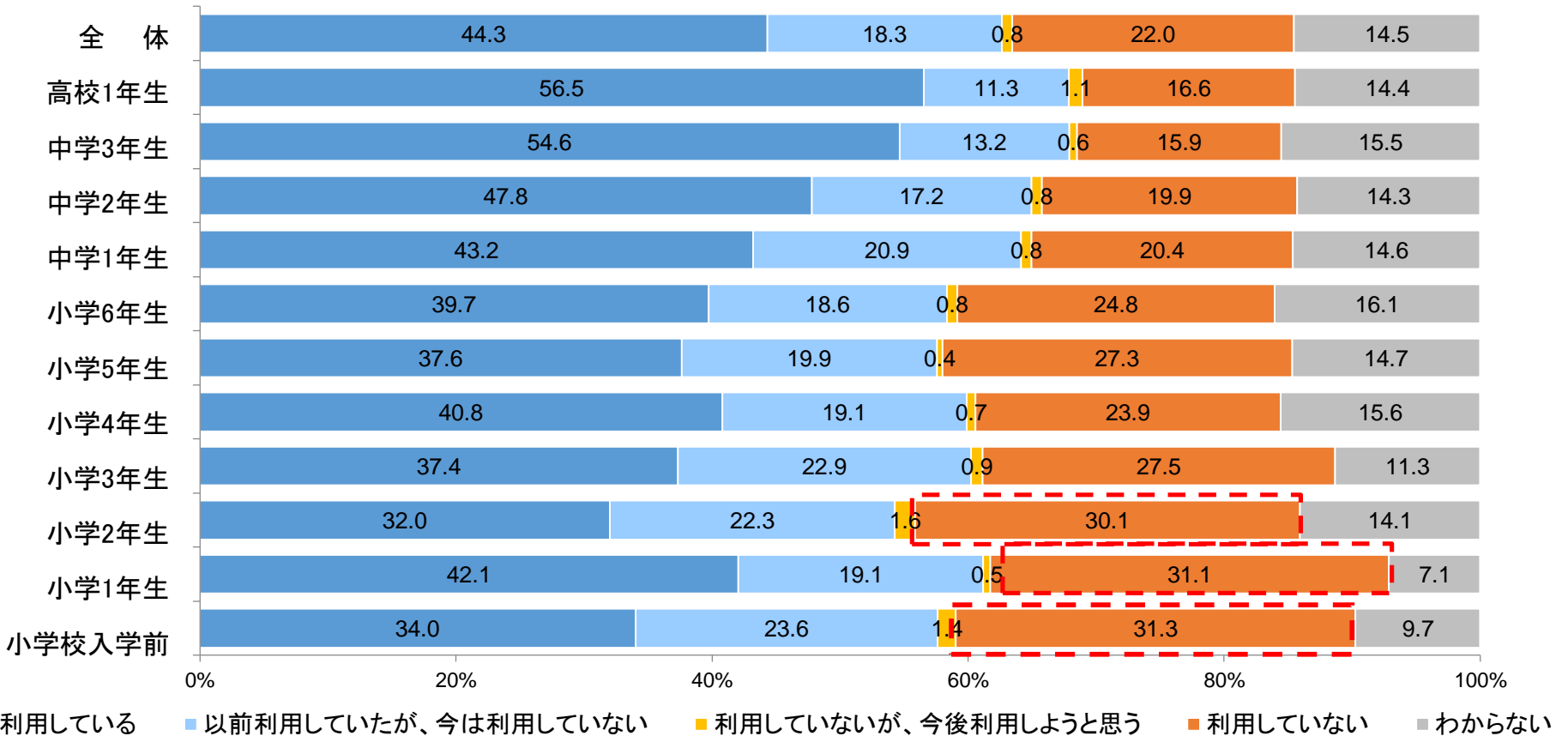
○ スマートフォン保有者について、インターネット利用開始時期と現在のフィルタリング利用状況の関連をみると、小学2年生までに利用開始したケースでは「利用していない」が3割と多い。小学5年生以降では、インターネット利用開始時期が遅いほど、フィルタリング利用率が高い。

【図表】フィルタリング利用状況（択一回答）

（スマートフォン保有かつフィルタリングを「よく知っている」「多少知っている」と回答した者ベース）

あなたはフィルタリングサービスまたは機能制限を利用していますか。

（※グラフは小数点以下第2位を四捨五入しているため、グラフの値の足し上げが100%にならない場合がある）



※「現在も、プライベートではインターネットを利用していない」(n=5)と回答した者は少数のためグラフより割愛した

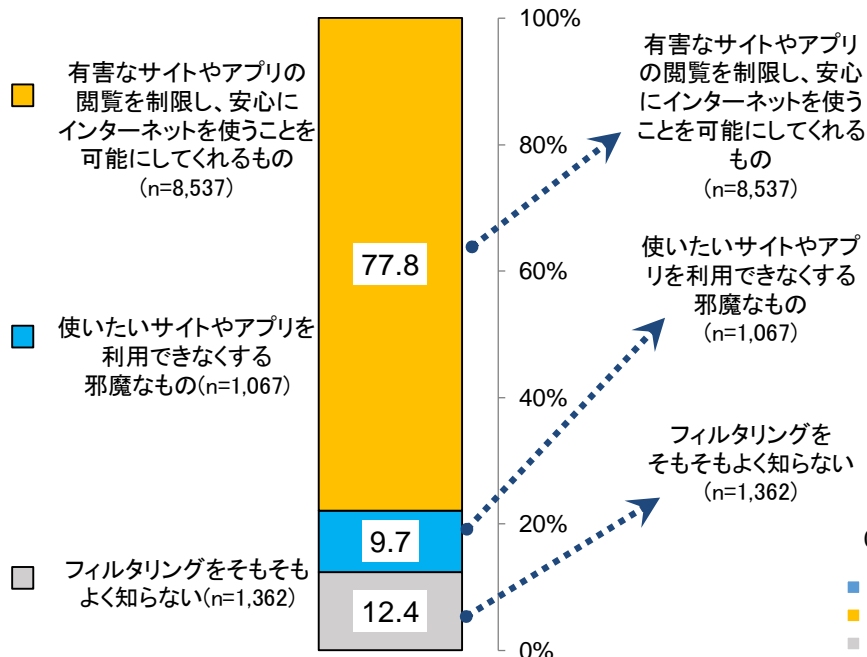
5. フィルタリング利用状況（フィルタリングに対するイメージと利用状況）

- フィルタリングを認知している高校生の77.8%は、フィルタリングを「有害なサイトやアプリの閲覧を制限し、安心してインターネットを使うことを可能にしてくれるもの」と肯定的に捉えている一方、9.7%が「使いたいサイトやアプリを利用できなくする邪魔なもの」と否定的に捉えている。【図表1】
- フィルタリングを肯定的に捉えている高校生の48.7%、否定的に捉えている高校生のそれぞれの35.1%がフィルタリングを利用している。一方で、「フィルタリングをそもそもよく知らない」層では23.9%と低い。【図表2】

【図表1】フィルタリングに対するイメージ(択一回答)

フィルタリングに対してどのような認識を持っていますか。

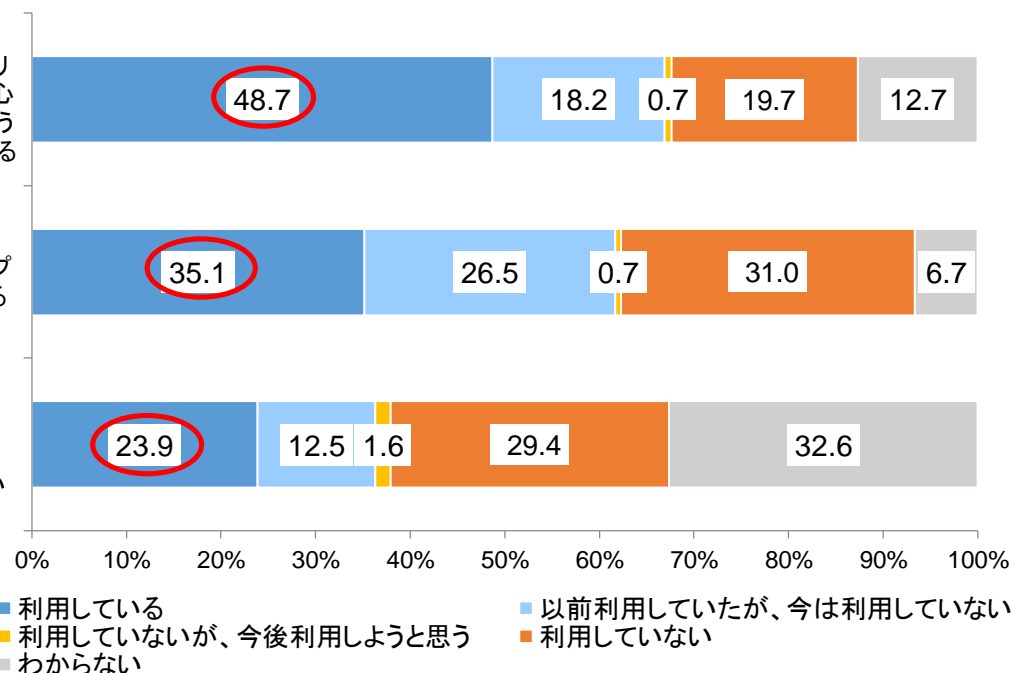
(スマートフォン保有かつフィルタリングを「よく知っている」「多少知っている」と回答した者ベース、n=10,966)



(※グラフは小数点以下第2位を四捨五入しているため、グラフの値の足し上げが100%にならない場合がある)

【図表2】フィルタリングに対するイメージごとにおけるフィルタリング利用状況(択一回答)

(スマートフォン保有かつフィルタリングを「よく知っている」「多少知っている」と回答した者ベース)



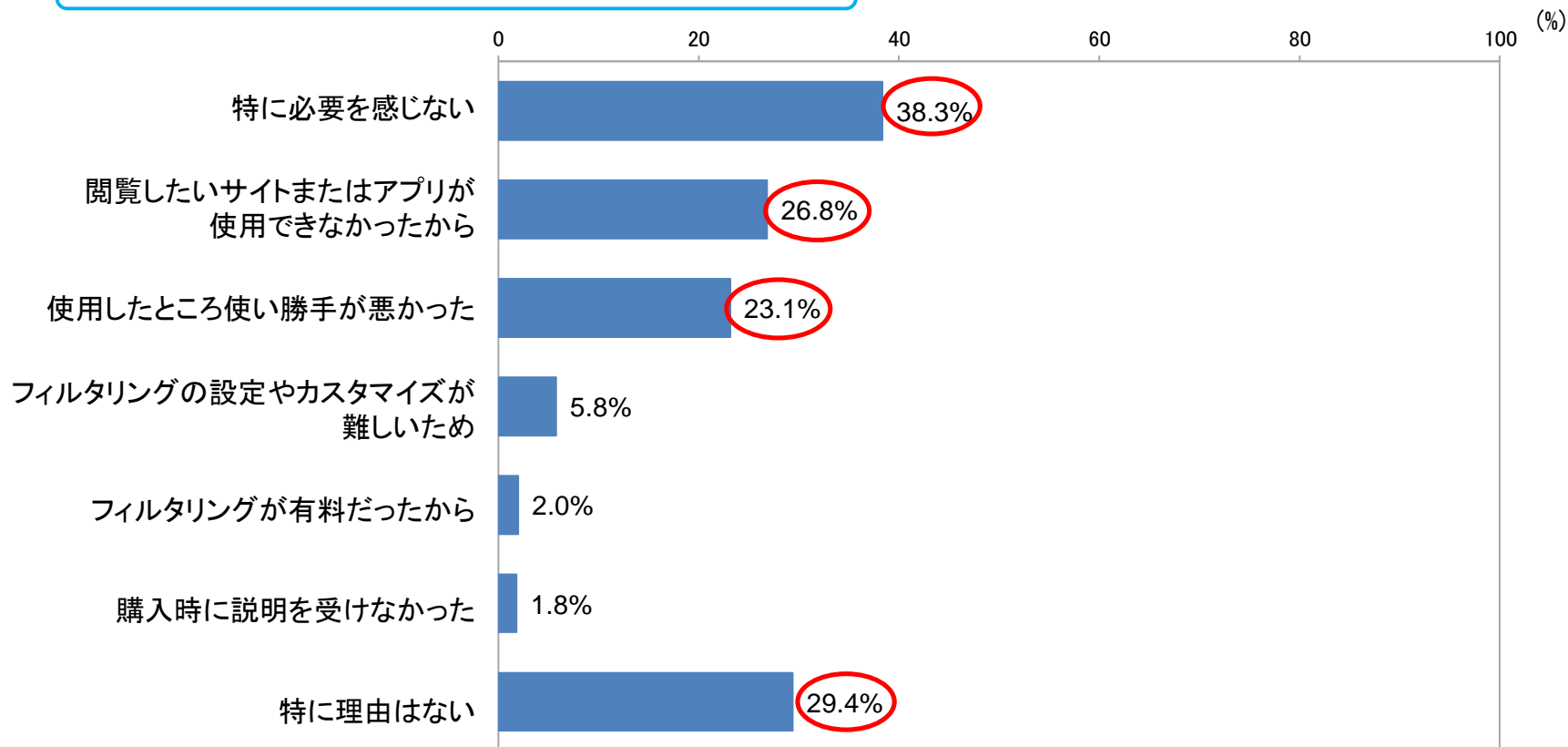
5. フィルタリング利用状況（フィルタリングを利用しない理由）

- 現在フィルタリングを利用していない理由については、「特に必要を感じない」が最も多く（38.3%）、次いで「閲覧したいサイトまたはアプリが使用できなかったから」（26.8%）、「使用したところ使い勝手が悪かった」（23.1%）の順で高い。「特に理由はない」は29.4%を占めた。

【図表1】フィルタリング非利用理由（複数回答）

（スマートフォン保有かつフィルタリングを「よく知っている」「多少知っている」と回答した者のうち、フィルタリングを現在利用していない者ベース、n=5,237）

現在、フィルタリングを利用していない理由をお答え下さい。



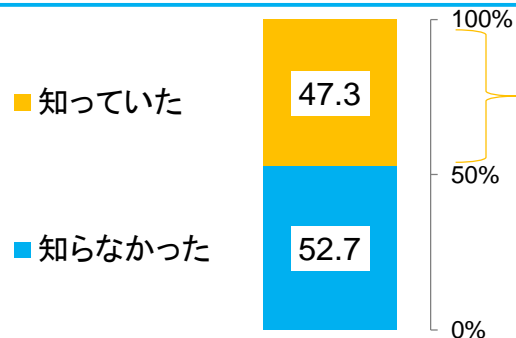
5. フィルタリング利用状況（カスタマイズ機能の認知と利用状況）

- 一定程度フィルタリングを認知している高校生のうち、フィルタリングのカスタマイズ機能により一部のSNSを利用できることを認知しているのは47.3%であった。【図表1】
- カスタマイズ機能を認知している場合、カスタマイズ機能を利用している人は35.2%だった。【図表2】
- カスタマイズ機能を認知している場合のフィルタリング利用率は49.6%であり、認知していない場合のフィルタリング利用率（39.6%）と比較して高い。【図表3】

【図表1】カスタマイズ機能の認知（択一回答）

（スマートフォン保有かつフィルタリングを「よく知っている」「多少知っている」と回答した者ベース、n=10,964）

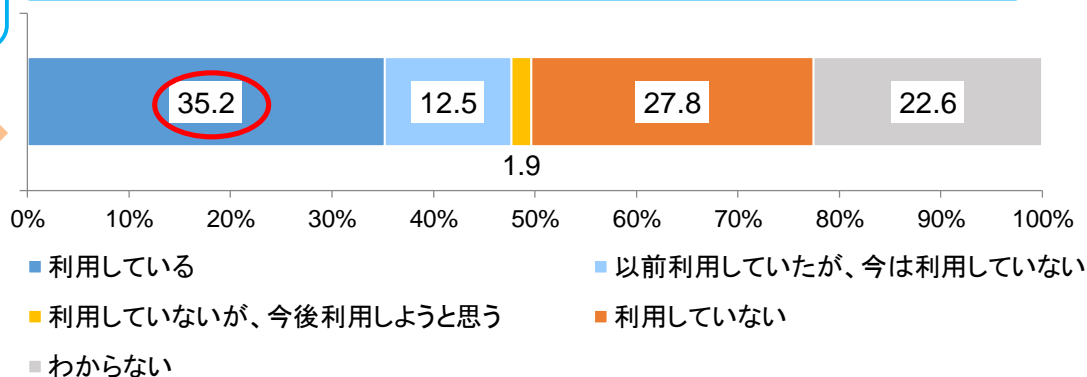
あなたは、フィルタリングを掛けていても、高校生プラスモードの選択やカスタマイズにより、一部のSNSを利用できることを知っていましたか。



【図表2】カスタマイズ機能認知者のカスタマイズ機能の利用状況（択一回答）

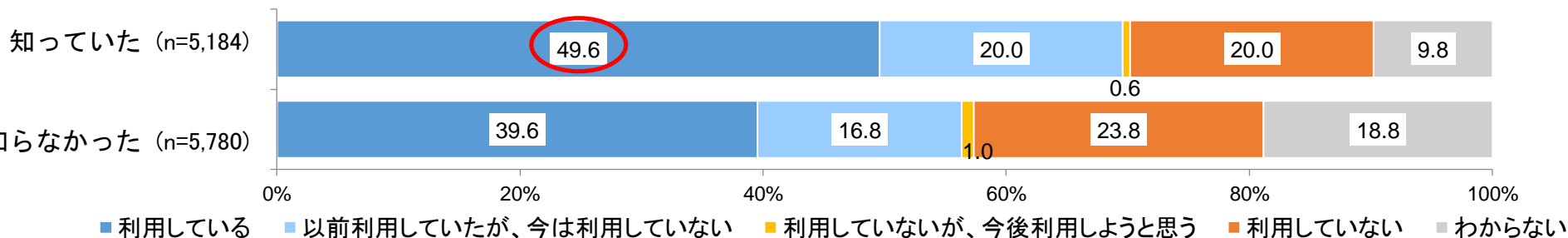
（スマートフォン保有かつフィルタリングを「よく知っている」「多少知っている」と回答した者で、カスタマイズ機能を認知している者ベース、n=5,858）

あなたは、モードの選択やカスタマイズにより、自分に適したフィルタリングの設定にできる機能を利用していますか。



【図表3】カスタマイズ機能を認知している高校生のフィルタリング利用状況（択一回答）

（スマートフォン保有かつフィルタリング機能を「よく知っている」「多少知っている」と回答した者ベース）



5. フィルタリング利用状況（フィルタリング利用状況別スマートフォン利用時間）

- フィルタリングを利用している高校生については、スマートフォンの平日1日当たりの平均利用時間が、フィルタリングを利用していない層に比べて2時間未満が多くなっている（25.5%）。【図表1】
- 平日ほど顕著ではないものの、スマートフォンの休日1日当たりの平均利用時間は、フィルタリングを利用している高校生は、利用していない高校生に比べて、2時間未満が多くなっている。【図表2】

【図表1】フィルタリング利用状況×1日のスマートフォン利用時間（平日）（択一回答）

	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5～6時間未満	6時間以上	2時間未満小計	5時間以上小計
全体 (n=11,034)	4.3	15.9	24.2	21.0	13.1	8.2	13.3	20.2	21.6
フィルタリング利用している (n= 4,894)	5.6	19.9	26.0	20.3	11.2	6.8	10.2	25.5	17.0
フィルタリング利用していない (n= 2,428)	3.8	11.8	21.7	19.8	15.2	10.0	17.6	15.7	27.7
以前利用していたが、今は利用していない (n= 2,018)	3.2	12.7	22.3	23.0	15.2	8.3	15.3	15.9	23.6
利用していないが、今後利用しようと思う (n= 90)	3.3	21.1	26.7	16.7	10.0	8.9	13.3	24.4	22.2
※利用していない(計) (n= 4,536)	3.5	12.4	22.1	21.2	15.1	9.2	16.5	15.9	25.7

【図表2】フィルタリング利用状況×1日のスマートフォン利用時間（休日）（択一回答）

	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5～6時間未満	6時間以上	2時間未満小計	5時間以上小計
全体 (n=11,033)	2.6	6.4	13.2	16.8	16.3	13.2	31.5	9.0	44.7
フィルタリング利用している (n= 4,894)	3.3	8.1	15.6	18.8	16.1	12.3	25.8	11.4	38.1
フィルタリング利用していない (n= 2,428)	2.5	5.1	10.4	15.2	14.7	13.6	38.5	7.5	52.1
以前利用していたが、今は利用していない (n= 2,017)	1.8	5.2	11.9	14.3	17.6	13.8	35.3	7.0	49.1
利用していないが、今後利用しようと思う (n= 90)	1.1	11.1	16.7	15.6	14.4	7.8	33.3	12.2	41.1
※利用していない(計) (n= 4,535)	2.2	5.2	11.2	14.8	16.0	13.6	37.0	7.4	50.6

※利用していない(計)：「フィルタリング利用していない」「以前利用していたが、今は利用していない」「使用していないが、今後利用しようと思う」の合計
 (※表は小数点以下第2位を四捨五入しているため、表内の値の足し上げが100%にならない・または小計値と0.1ずれる場合がある)

(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート(対象はいずれも高等学校1年生)の結果を基に作成。

5. フィルタリング利用状況

(ペアレンタルコントロール機能に対するイメージと利用状況)

- スマートフォンを保有し、一定程度フィルタリングを認知している高校生のうち、ペアレンタルコントロール機能について、61.3%は「スマートフォンの使い過ぎの防止等に役立つもの」と肯定的に捉えているが、10.5%は「保護者に利用時間を管理・制限されてしまう邪魔なもの」という否定的に捉えている。

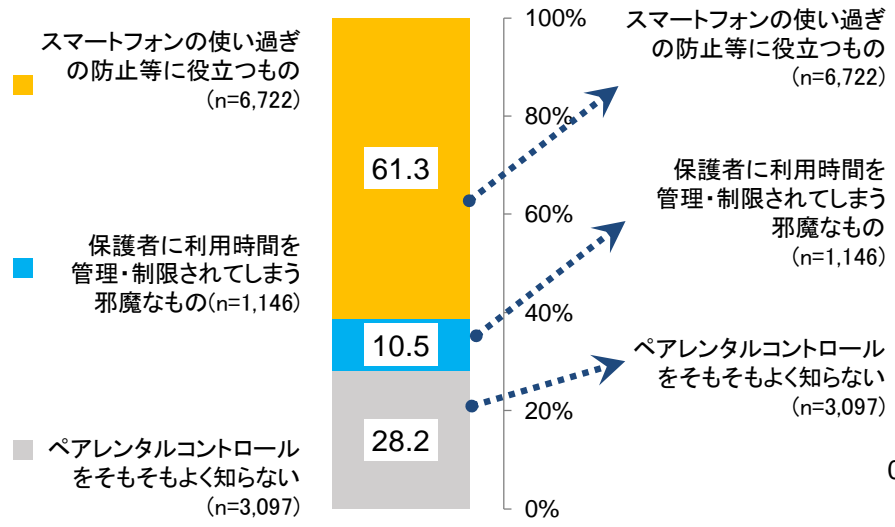
【図表1】

- ペアレンタルコントロール機能を肯定的に捉えている高校生の48.2%、否定的に捉えている高校生の40.3%がフィルタリングを利用している。一方、「ペアレンタルコントロールをそもそもよく知らない」高校生のフィルタリング利用率は37.3%である。【図表2】

【図表1】ペアレンタルコントロールに対するイメージ (択一回答)

あなたは、ペアレンタルコントロールに対してどのような認識を持っていますか。

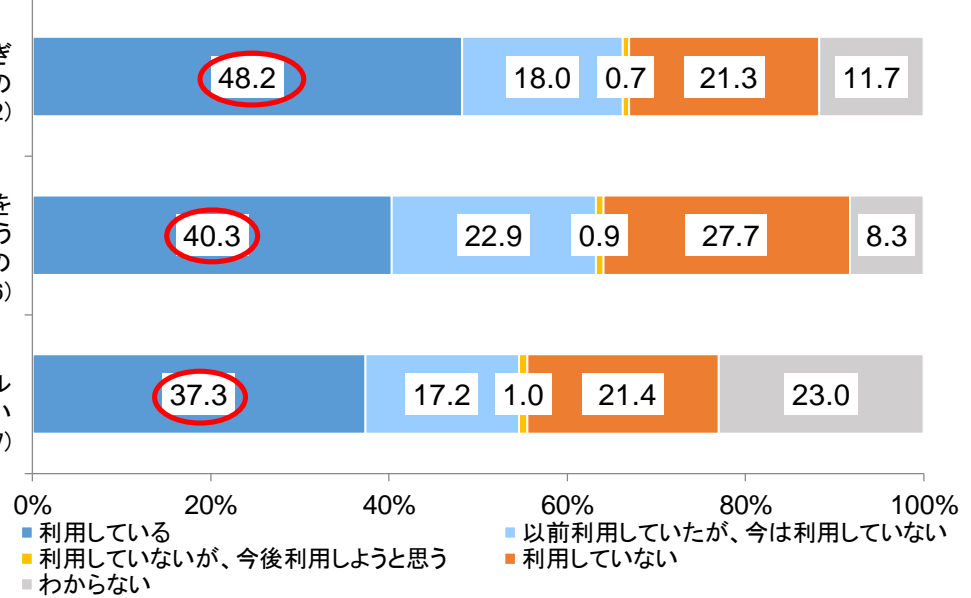
(スマートフォン保有かつフィルタリングを「よく知っている」「多少知っている」と回答した者ベース、n=10,965)



【図表2】ペアレンタルコントロールに対するイメージごとにおけるフィルタリング利用状況 (択一回答)

(スマートフォン保有かつフィルタリングを「よく知っている」「多少知っている」と回答した者ベース)

(※グラフは小数点以下第2位を四捨五入しているため、グラフの値の足し上げが100%にならない場合がある)



(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート (対象はいずれも高等学校1年生) の結果を基に作成。

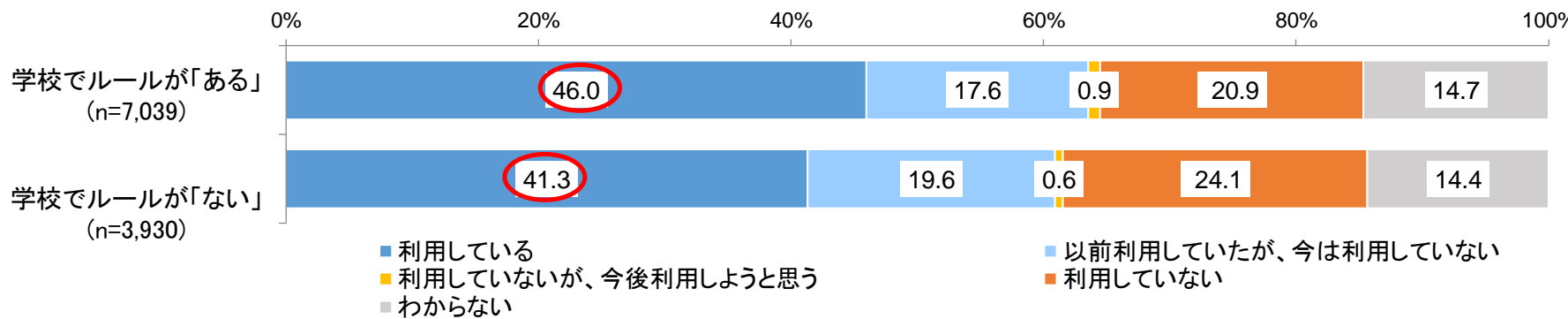
5. フィルタリング利用状況

(学校・家庭でのSNS等のルールとフィルタリングの利用状況)

- スマートフォンを保有し、一定程度フィルタリングを認知している高校生のうち、
- 学校におけるSNS等のインターネット利用についてルールがある場合、フィルタリング利用率は46.0%であり、ルールがない場合の利用率(41.3%)と比較して高い。【図表1】
 - 家庭におけるSNS等のルールがある場合、フィルタリング利用率は56.0%であり、ルールがない場合の利用率(29.8%)と比較して著しく高い。【図表2】

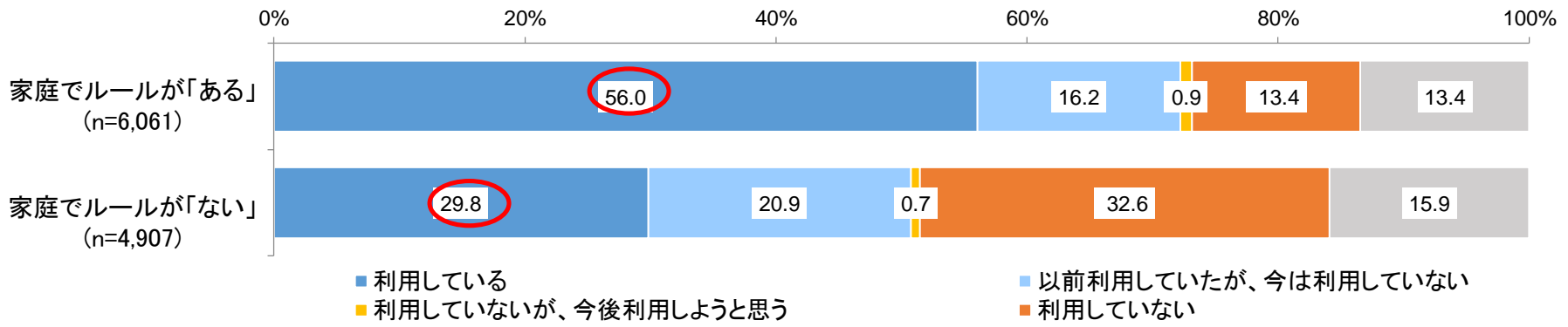
【図表1】学校のSNS等のインターネット利用ルールの有無とフィルタリングの利用状況(択一回答)

(スマートフォン保有かつフィルタリングを「よく知っている」「多少知っている」と回答した者ベース)



【図表2】家庭のSNS等のインターネット利用ルールの有無とフィルタリングの利用状況(択一回答)

(スマートフォン保有かつフィルタリングを「よく知っている」「多少知っている」と回答した者ベース)



(※グラフは小数点以下第2位を四捨五入しているため、グラフの値の足し上げが100%にならない場合がある)

(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート(対象はいずれも高等学校1年生)の結果を基に作成。

6. 高校生のインターネット利用実態とILAS結果（クロス集計） （平日1日当たりの平均利用時間）

- スマートフォンの平日1日当たりの平均利用時間は、2～3時間未満の割合が最も多く（24.1%）、他の機器に比べて利用時間が長い。また、56.1%がスマートフォンを3時間以上利用している。【図表1】
- スマートフォンの利用時間別の正答率では平均利用時間1時間未満が最も高く（73.0%）、利用時間が長いほど正答率が低下する傾向にある。【図表2】

あなたが平日にインターネットを利用する際に使う機器について、それぞれの1日の平均使用時間を教えてください。

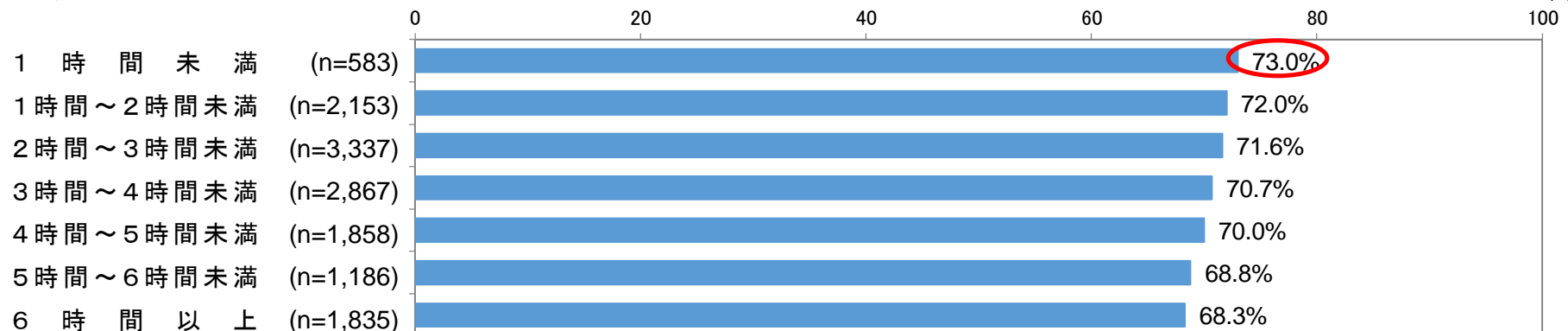
【図表1】 平日1日当たりの平均利用時間(択一回答)

[各機器保有者における割合：%]

	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5～6時間未満	6時間以上
スマートフォン (n=13,819)	4.2	15.6	24.1	20.7	13.4	8.6	13.3
携帯電話/PHS (n= 351)	71.5	9.1	5.4	4.3	2.8	2.8	4.0
タブレットPC (n= 5,822)	59.9	21.9	9.0	4.2	1.9	1.1	1.9
ノートPC/デスクトップPC (n= 5,373)	65.8	16.6	8.2	4.4	2.1	0.9	1.9
携帯ゲーム機/固定ゲーム機 (n= 9,970)	69.0	16.8	7.3	3.3	1.2	0.7	1.7
携帯音楽プレイヤー (n= 1,757)	71.1	16.6	5.9	3.5	0.7	0.6	1.5

(※表は小数点以下第2位を四捨五入しているため、表内の値の足し上げが100%にならない場合がある)

【図表2】スマートフォンの利用時間別の正答率 (スマートフォン保有者ベース)



6. 高校生のインターネット利用実態とILAS結果（クロス集計）

（休日 1日当たりの平均利用時間）

- スマートフォンの休日 1日当たりの平均利用時間は、6時間以上の利用が最も多く（31.9%）、他の機器に比べ利用時間が長い。また、45.2%がスマートフォンを5時間以上利用している。【図表 1】
- スマートフォンの利用時間別の正答率では平均利用時間 1時間未満が最も高い（72.7%）が、平均利用時間 1時間以上では、利用時間の長さとは正答率に相関関係が確認できない。【図表 2】

あなたが休日にインターネットを利用する際に使う機器について、それぞれの1日の平均使用時間を教えてください。

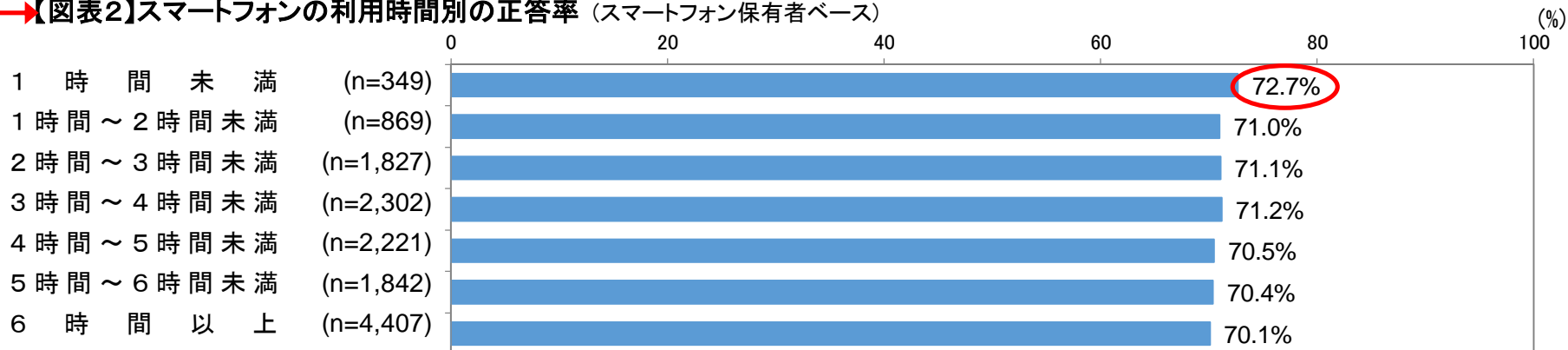
【図表 1】 休日 1日当たりの平均利用時間（択一回答）

[各機器保有者における割合：%]

	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5～6時間未満	6時間以上
スマートフォン (n=13,817)	2.5	6.3	13.2	16.7	16.1	13.3	31.9
携帯電話/PHS (n= 351)	69.8	8.3	4.3	3.4	3.7	2.3	8.3
タブレットPC (n= 5,819)	57.1	18.1	9.5	5.9	3.0	2.0	4.6
ノートPC/デスクトップPC (n= 5,371)	61.3	14.9	9.1	5.1	2.9	2.0	4.7
携帯ゲーム機/固定ゲーム機 (n= 9,968)	56.8	18.1	10.1	5.9	3.2	1.6	4.4
携帯音楽プレイヤー (n= 1,757)	67.3	16.6	6.9	4.2	1.3	0.9	3.0

(※表は小数点以下第2位を四捨五入しているため、表の値の足し上げが100%にならない場合がある)

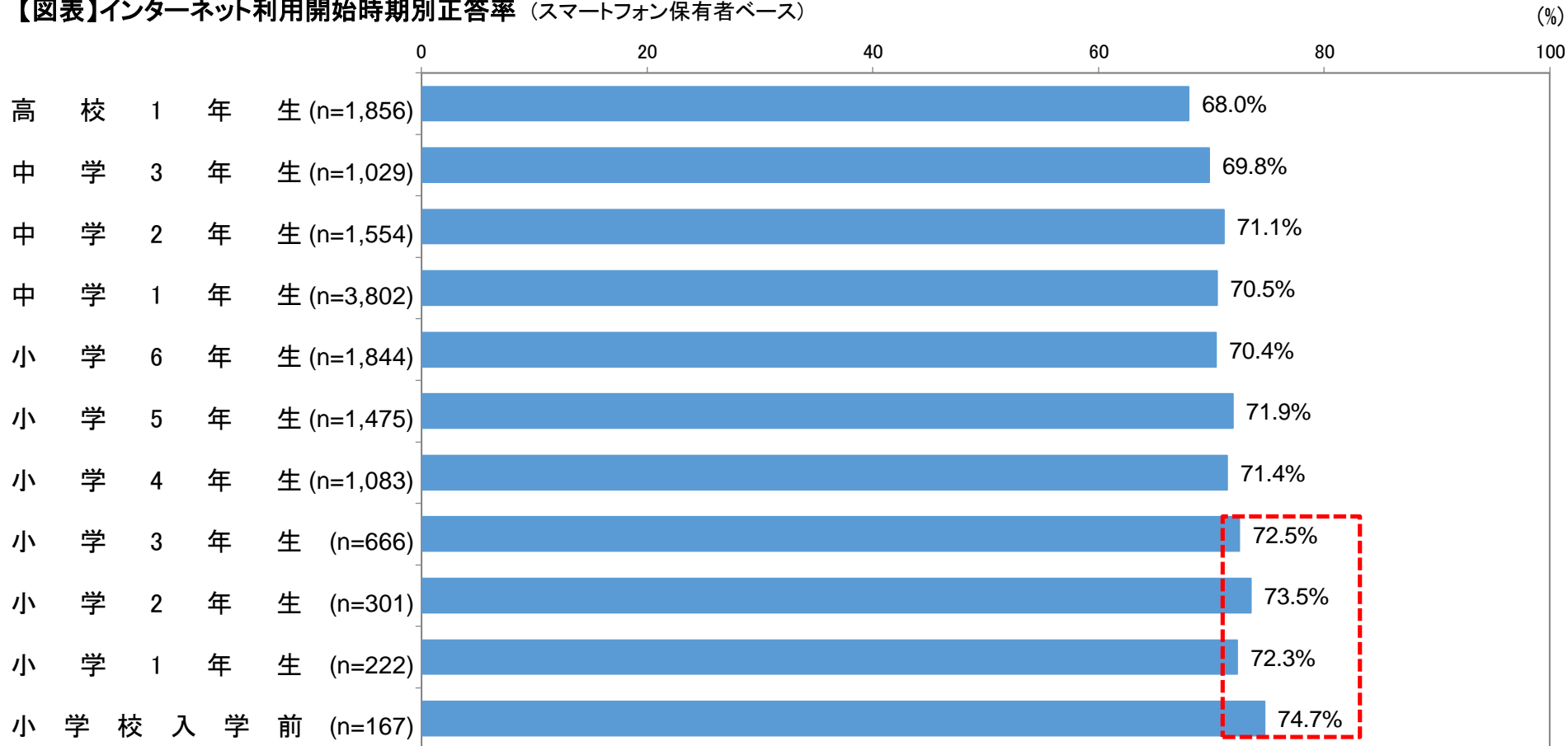
【図表 2】スマートフォンの利用時間別の正答率（スマートフォン保有者ベース）



6. 高校生のインターネット利用実態とILAS結果（クロス集計） （インターネット利用開始時期）

- インターネットを自由に利用し始めた時期とILASの正答率については、小学3年生までに自由に利用し始めた高校生の正答率が72～74%台と若干高い傾向にある。

【図表】インターネット利用開始時期別正答率（スマートフォン保有者ベース）



※「現在も、プライベートではインターネットを利用していない」(n=21)と回答した者は少数のためグラフより割愛した

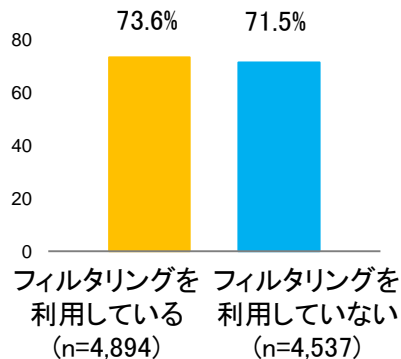
(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート（対象はいずれも高等学校1年生）の結果を基に作成。

6. 高校生のインターネット利用実態とILAS結果（クロス集計） （フィルタリング利用と家庭でのルール）

- スマートフォンを保有し、一定程度フィルタリングを認知している高校生のうち、フィルタリングを利用している高校生（正答率：73.6%）の方が、フィルタリングを利用していない高校生（正答率：71.5%）に比べ正答率が高い。【図表1】
- 家庭でのルールがある高校生（正答率：71.8%）の方が、ルールがない高校生（正答率：69.5%）に比べ正答率が高い。【図表2】
- 家庭でのルール有無及びフィルタリング利用の有無との関係については、スマートフォンを保有し、一定程度フィルタリングを認知している高校生のうち、「家庭でのルールあり」かつ「フィルタリング利用あり」の場合が74.2%と最も高く、いずれも「なし」の場合が71.1%と最も低い。【図表3】

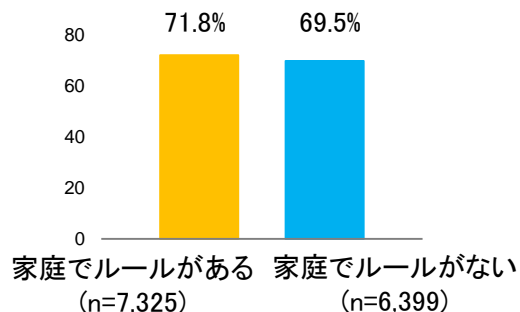
【図表1】フィルタリング利用の有無と正答率

（スマートフォン保有かつフィルタリングを「よく知っている」「多少知っている」と回答した者ベース）100（%）



【図表2】家庭のインターネット利用ルールの有無と正答率

（スマートフォン保有者ベース）100（%）



【図表3】家庭でのルールの有無及びフィルタリング利用の有無と正答率

（スマートフォン保有かつフィルタリングを「よく知っている」「多少知っている」と回答した者ベース）

		家庭でのルール	
		○あり	×なし
フィルタリング利用	○あり	74.2% n=3,397	72.8% n=1,463
	×なし	72.3% n=1,849	71.1% n=2,663

全体の正答率は：70.6%（n=14,021）

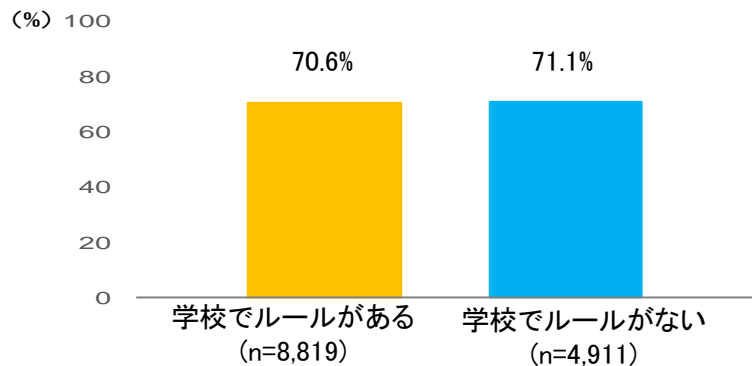
6. 高校生のインターネット利用実態とILAS結果（クロス集計）

（学校での学習やルールと家庭でのルール）

- 学校でのインターネット利用についてのルールの有無別では、正答率に大きな違いはない。【図表1】
- 学校でインターネット利用上の危険について、「通常授業の中で教えてもらった」（正答率：71.2%）、「外部の講師等による特別授業の中で教えてもらった」（72.6%）の正答率は高く、「教えてもらっていない」（正答率：62.3%）と比較すると大きな差がある。【図表2】

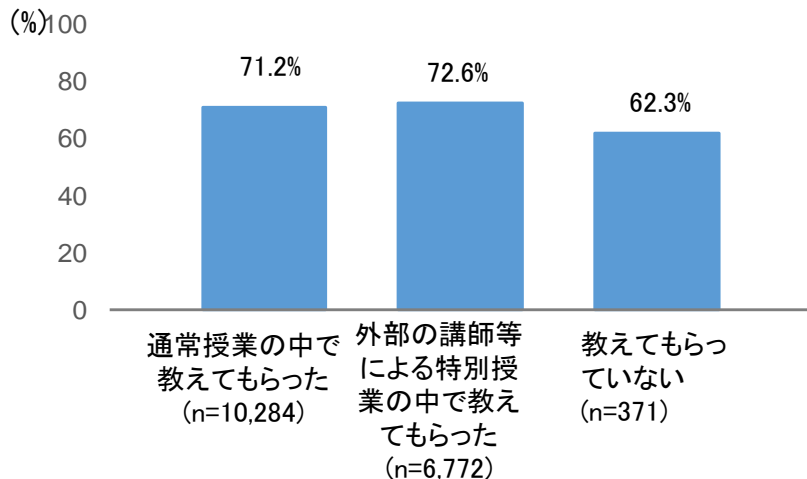
【図表1】学校でのインターネット利用ルールの有無と正答率

（スマートフォン保有者ベース）



【図表2】学校の授業状況と正答率

（スマートフォン保有者ベース）



【参考】家庭でのルールの有無及び学校でのルールの有無と正答率

（スマートフォン保有かつフィルタリングを「よく知っている」「多少知っている」と回答した者ベース）

		家庭でのルール	
		○あり	×なし
学校でのルール	○あり	72.6% n=4,428	70.8% n=2,607
	×なし	73.9% n=1,631	71.6% n=2,298

全体の正答率は: 70.6% (n=14,021)

7. 参考（啓発コンテンツ）

○ 本調査結果からは、青少年のスマートフォン（インターネット）の安全・安心な利用に関しては、利用時間の管理、フィルタリングやペアレンタルコントロール機能に係る適切な情報の周知・普及、家庭でのインターネット利用に係るルールづくり等が重要な課題であると考えられます。

このため、これらに関して理解を深める上で参考となる啓発コンテンツを、次のとおりご紹介します。

【インターネットの安心・安全な利用に係る啓発資料関連】

インターネット利用お役立ち情報（保存版）（総務省）

別紙参照

ILAS調査に係る補助教材（総務省）

情報リテラシー&情報モラルの高さがカギ「7種のリスクを正しく知ろう！」

https://www.soumu.go.jp/use_the_internet_wisely/special/ilas/

【青少年フィルタリングや利用時間管理等のペアレンタルコントロール機能等関連】

青少年フィルタリング及び海賊版対策に係る普及啓発動画「フィルタリングサービス『NEWヒーロー？』編」

<https://youtu.be/NBbbHdoRK1I> （ショート版：<https://youtu.be/AU8WaeRLXac>）

子どもとネットのトリセツ（安心ネットづくり促進協議会）

<https://www.kodomo-safety.org/>

青少年の携帯電話利用について（一般社団法人 電気通信事業者協会）

<https://www.tca.or.jp/mobile/approach.html>

MVNOスマートフォン安心安全ガイド（一般社団法人 テレコムサービス協会）

<https://www.telesa.or.jp/mvno-spaa-guide>

【インターネット利用に係る家庭内ルール作成関連】

SNS利用ガイドライン・家庭内ルール作成のすすめ（安心ネットづくり促進協議会）

<https://www.good-net.jp/safe-internet/guideline/>

7. 参考 (ILAS)

- 総務省のインターネットの安心・安全な利用に関する啓発ウェブサイト「上手にネットと付き合いおう！～安心・安全なインターネット利用ガイド～」の特集ページにILASについて取り上げています。

上手にネットと付き合いおう！～安心・安全なインターネット利用ガイド～（総務省）

特集ページ(青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標等に係る調査)

https://www.soumu.go.jp/use_the_internet_wisely/special/ilas/

上手にネットと付き合いおう！
安心・安全なインターネット利用ガイド

文字サイズ 大 中 小

総務省
Ministry of Internal Affairs and Communications

未就学児・未就学児の保護者 青少年(U18) 保護者・教職員 シニア インターネットトラブル事例集 **特集ページ** 動画コンテンツ集 リンク集

TOP > 特集ページ > 青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標等に係る調査

特集ページ

青少年がインターネットを安全に安心して活用するための リテラシー指標等に係る調査 —ILAS (Internet Literacy Assessment indicator for Students)—

総務省では、青少年のインターネット・リテラシー向上のため、特にインターネット上の危険・脅威に対応するための能力とその現状等を可視化するため、これらの能力を数値化するテストを指標として開発しました。2012年度より毎年、高等学校1年生を対象に、青少年のインターネット・リテラシーを測るテストをインターネット等の利用状況に関するアンケートとあわせて実施しています。



青少年に必要なリスク対応能力の分類

インターネット上の危険・脅威への対応に必要な能力（リスク対応能力）について、以下のように分類。

リスク分類	リスクの具体例	対応能力
1 違法有害情報リスク 		
1a. 違法情報リスク	著作権、肖像権、出会い系サイト等	違法コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる。
1b. 有害情報リスク	不適切投稿、炎上、閲覧制限等	有害コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる。
2 不適正利用リスク 		
2a. 不適切接触リスク	匿名SNS、迷惑メール、SNSいじめ等	情報を読み取り、適切にコミュニケーションができる。
2b. 不適正取引リスク	フィッシング、ネット上の売買等	電子商取引の問題を理解し、適切に対処できる。
2c. 不適切利用リスク	過大消費、依存、歩きスマホ、マナー等	利用料金や時間の浪費に配慮して利用できる。
3 プライバシー・セキュリティリスク 		
3a. プライバシーリスク	プライバシー、個人情報の流出等	プライバシー保護を回り利用できる。
3b. セキュリティリスク	ID・パスワード、ウイルス対策等	適切なセキュリティ対策を講じて利用できる。

OECDデジタル環境下の青少年保護に関する勧告及び
青少年がインターネットを安全に安心して活用するための
リテラシー指標（ILAS）の改訂について

OECD オンライン上の子供の保護に関する勧告（2012年）

（Recommendation of the Council on the Protection of Children Online）

- 「オンライン上の子供の保護に関する勧告」は、2008年11月の日本提案を端緒として議論が進められ、2012年2月16日にOECD勧告として成立。
- 本勧告においては、インターネット上の青少年保護に関して、保護者の役割や官民一体での取組の重要性等とともに、国際的な指標策定の必要性についても規定されている。

2012年OECD勧告の概要

全ての関係者への勧告

- a. 保護者及び子供への支援
（子供を保護する一義的な責任は親、全ての関係者は親を支援する責任）
- b. インターネットの利点と表現の自由等の尊重
- c. 子供の年齢及び技術革新への柔軟な対応

政府の国内取組への勧告

- a. 明確な政策目標の特定等によるリーダーシップの発揮
- b. 関係者による協調的な対応の支援
- c. 官民の複数の政策の整合性の確保
- d. 普及啓発活動による保護者及び子供への支援
インターネット・リテラシーの授業の導入、関係者によるリテラシー教育の支援、
子供と保護者のインターネット・リテラシーの進化を定期的に評価することの奨励 等
- e. 科学的根拠に基づく政策の支援
子供のインターネット利用、政策の影響評価などについての定期的な調査実施 等
- f. インターネット上の子供を保護する技術の開発と採用の奨励

政府の国際取組への勧告

- a. 国内機関の国際的なネットワーク強化
- b. 国際指標の策定等政策の国際比較分析に向けた基盤の整備
- c. 普及啓発成功事例の共有等による地域的・国際的な取組の支援
- d. 国際的・国内的な機関、取組の連携強化

* 勧告における「子供」=原則として18歳未満の全ての個人

OECD デジタル環境下の子供に関する勧告（2021年）

（Recommendation of the Council on Children in the Digital Environment）

○ 「デジタル環境下の子供に関する勧告」は、2012年に「オンライン上の子供の保護に関する勧告」が成立した後のデジタル環境の進展を踏まえて改訂したものであり、2021年5月31日にOECD勧告として成立。

2021年 OECD勧告の概要

全ての関係者への勧告（子供にとって安全で恩恵のあるデジタル環境のための原則）

1. 基本的な価値（子供の利益・権利を最大限考慮）
2. 保護者及び子供に対する啓発等を通じた支援
3. 子供がデジタル環境の恩恵を最大限享受できるように過剰な対応を回避
4. 子供の年齢、発達度合い、リテラシー等の状況に応じた対応
5. 保護者、教師等の関係者との協力やデジタルサービス・プロバイダの積極的な取組を促進

政府の国内取組への勧告（全体的な政策枠組）

1. 子供の最善の利益のためのリーダーシップやコミットメントの実施
（明確な政策目標、全政府的な措置、適切な予算や人的資源の確保 等）
2. デジタル環境下の子供に影響する法律の見直し、創設、修正等の実施
3. デジタルリテラシーの促進
（年齢、発達度合い等に応じたデジタルリスクの明確化、デジタルリテラシー・スキルの定期的な測定 等）
4. エビデンスに基づく政策の採用
（法律や政策の定期的な評価、子供とデジタル環境に関する利益とリスクの調査の実施 等）
5. 子供の年齢に応じた安全性設計
（子供の年齢、発達度合い等に応じて不適切な情報との接触を避けるための調査や技術の育成）

政府の国際取組への勧告（国際協力）

1. ホットラインや啓発機関等のデジタル環境下の子供の利益に資する国内的組織同士の国際的なネットワークの強化
2. デジタル環境下の子供に関する政策に関する情報共有を実施
（デジタル環境のリスクについての子供や保護者の意識、対応可能性、政策の影響や有効性に関する国際的な指標の作成に向けた提案の作成、公式な定量的なデータの定期的な更新 等）
3. 国際的・地域的な能力開発の取組の支援
4. 政府の取組を支援するために複数の国際的・地域的な機関による調整

政府のデジタルサービスプロバイダに関する勧告

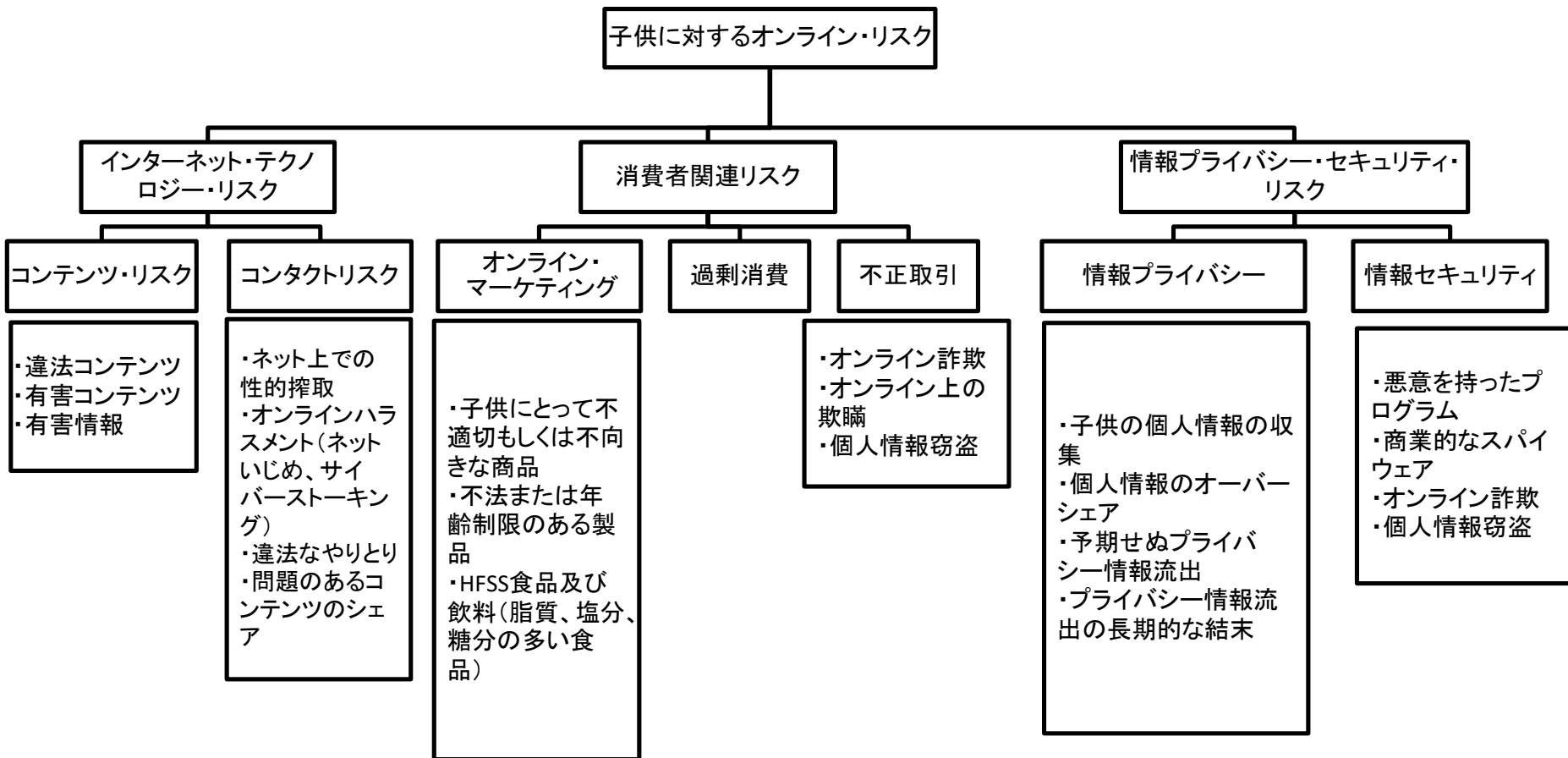
デジタルサービスプロバイダ向けガイドラインの推進（国内の法規制やサービス等を考慮したベストプラクティスや行動規範の構築）

※各国政府への勧告とともに、デジタルサービスプロバイダに対してはガイドラインの尊重を要請している。

* 勧告における「子供」=原則として18歳未満の全ての個人

OECD デジタル環境下の子供の保護(2011年)

(The Protection of Children Online: Risks Faced by Children Online and Policies to Protect Them)



OECD デジタル環境下の子供 改訂リスク類型(2021年)

(Children in the Digital Environment/ Revised Typology of Risks)

○ 技術的な進展や新しいビジネスモデルによって、新たなリスクが発生していることから、2011年に示したインターネット上の青少年に対するリスク分類が2021年1月に改訂された。

	コンテンツ・リスク	コンダクト・リスク	コンタクト・リスク	消費者関連リスク
各リストの詳細	1対多のインターネット環境の中で、子供が受動的に受け取る又はさらされるコンテンツにまつわるリスク	子供が他の子供に生じさせるリスク	子供がデジタル環境に関わる際のリスク(性的人身売買、チャイルド・グルーミング)	消費者としてのリスク(個人情報に基づきターゲットされることによるリスク)
リスクの顕現	憎悪コンテンツ(誹謗中傷、差別)	憎悪的な行動(誹謗中傷、差別)	憎悪的な遭遇	マーケティング・リスク(違法・年齢に不適切な商品、ネイティブ広告、不透明なインフルエンサー・マーケティング、承認欲求扇動、アドバゲーム、送り付け商法、サブスクリプショントラップ)
	有害コンテンツ(オンライン詐欺、恐怖心を与えるニュース・写真、暴力的・性的な宣伝、ヘイトメッセージ)	有害な行動(ネットいじめ)	有害な遭遇	商業的なプロファイリングのリスク(広告主によるソーシャルメディアの利用のデータの利用、有害情報を含むコンテンツフィード)
	違法コンテンツ(児童の性的搾取、テロ行為の主張、教唆、ヘイトスピーチ、差別的コンテンツ)	違法な行動(ネットいじめ)	違法な遭遇	財務リスク(デジタルアシスタントを通じた無意識の商品注文等)
	偽情報	ユーザーの生成による問題のある行動(セクスティング)	その他の問題な遭遇	セキュリティ・リスク(マルウェアを含むアプリ(無料ゲーム、着信音等)、フィッシングテキスト、メール、ポップアップ)
横断的なリスク	<ul style="list-style-type: none"> プライバシー・リスク(個人間(保護者、友人)、機関(病院・学校(教育機器、e-Learningプラットフォームによるものを含む)等)、商業(データ追跡の商業利用、スマート玩具等を通じたデータ収集)のリスク、シェアレンティング) 先進技術のリスク AI: 情報漏洩、違法な個人情報利用、バイアスの増幅・複写(リポスト)、誤用 <ul style="list-style-type: none"> ✓ IoT: 位置情報漏洩、会話記録・分析 ✓ 予測分析: スコアリング ✓ 生体認証: データ保護・プライバシーリスク、誤用リスク(盗用、詐欺、個人情報漏洩含む。)、スコープクリープ(目的外利用) 健康や幸福に関するリスク(メンタルヘルス(うつ病)、肥満) 			

ILASの改訂について

- 総務省では、青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標（ILAS: Internet Literacy Assessment indicator for Students）を開発し、2012年度より毎年、高等学校1年生を対象に、当該指標を用いたテストをインターネット等の利用状況に関するアンケートとあわせて実施（2014年度に改訂された指標を2015年度以降利用）。
- OECDでは、「オンライン上の子供の保護に関する勧告」（2012年）の成立後のデジタル環境の進展を踏まえて改訂した「デジタル環境下の子供に関する勧告」を2021年5月に採択。また、「デジタル環境下の子供 改訂リスク類型」を2021年1月に発行。
- これらの動向等を踏まえ、ILASのテスト問題の改訂等を実施。

○ILAS改訂に向けた作業

- ・リスクリテラシーの定義リスト内容（大分類：3、中分類：7、小分類：23、内容：307）の見直しと改訂
- ・改訂した定義リストを元にした指標（テスト問題）の改訂と新規開発及び問題解説作成
- ・改訂ILASテスト問題（案）を用いたプレテストの実施
- ・テスト理論を用いた改訂ILASのテスト問題（案）の妥当性・信頼性の評価、問題の確定

○ILAS改訂の方向性

- ・今般のOECDリスク類型改訂で新たに加わった分類（コンダクトリスク、憎悪関係のリスク等）は既存のILASのリスク分類に包含できるものと整理可能
- ・経年的なりテラシーの習得状況を測定することを目的としていることから大幅な改訂は行わない（現行ILASの中分類（7分類）及び問題数（1分類につき7問）を維持）
- ・その他、現在のテスト問題のうち用語として古いものや表現のばらつきが見られる用語を見直し

ILASの改訂のスケジュール

○令和3年度

2月 委員会(第1回)及びテスト改訂WG(第1回)

3月 テスト改訂WG(第2回)及び委員会(第2回)

○令和4年度(予定)

8月～9月 高校生を対象としたプレテスト

10月 テスト改訂WG(第3回)及び委員会(第3回)、問題の確定

11月～ 令和4年度ILAS実査の実施